

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

 recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014

Youth Blog 2014

4月27日から5月2日にかけて、アメリカ・ニューヨークで、2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議第3回準備委員会が開催されました。

ナガサキ・ユース代表団もニューヨーク入りし、会議の傍聴や様々な活動に参加しました。会議の全期間への参加は出来ませんでしたが、8人それぞれが独自のプログラムを組み、その活動報告を日々行っております。

Sakura's Blog

Yuko's Blog



Chisa's Blog

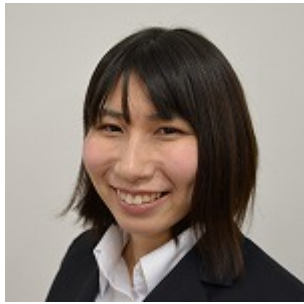
Yuno's Blog



—

Mariko's Blog

Haruka's Blog



Minami's Blog

Tomoe's Blog



Youth Blog



核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/sakuras-blog

Sakura's Blog ~NPT blog~

No.7 Monday, 5 May

遅くなってしまい、申し訳ありません。

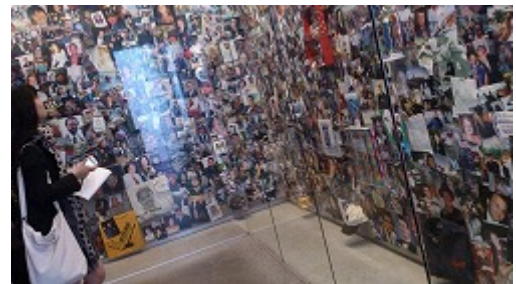
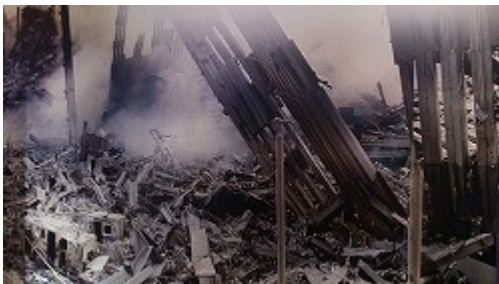
本日は9.11トリビュートセンターメモリアルを訪問しました。ユースの繋がりで出会った遺族の方に案内して頂きました。

恥ずかしながら、私は9.11のことをよく知らず、メモリアルで多くの方の遺影や遺言、焼けて押しつぶされた日用品などを目にし、衝撃を受けました。9.11の事実は知っていましたが、現場に居た人々やその家族を思ったことが無かったからです。当時、ビルの上階に居た人々は逃げることができず、助からないと考え、次々と窓から飛び降りたそうです（写真参照）。全く想像していなかったことでした。私もその場にいたなら、同じ行動を取っていたかもしれません。彼らの気持ち、苦しみを感じ、いたたまれない気持ちになりました。

その他に、遺族の方々は苦しみを分かち合おうと様々なご寄付や活動をされていることを知りました。その一つに、福島への鶴のモニュメントの寄贈がありました（写真参照）。国や苦しみの形が異なっても、人と人の思いやりの気持ちは変わらないのだと実感しました。

キャサリンさんが集中講義で「イメージすることが大事だ。未来に起こりうる危険などを身近なものとして捉えるには想像力が必要不可欠だ。」とおっしゃったことを思い出しました。核軍縮の議論では、核兵器の非人道性が注目されています。同様に、自身とかけ離れた場所だとしても、出来事の認識だけでなく、そこに実際に居た人々を思うことが大事なのだと感じました。今後、自身と距離や境遇がかけ離れた人々の気持ちを慮ることができる人になりたいと強く思いました。

早いものでもう最終日になりました。とてもあっという間でしたが、中身の濃い充実した日でした。このような貴重な機会を下さったこと、本当に感謝しています。今回の経験を、ぜひ今後の活動に活かしていこうと思います。応援して頂き、ありがとうございました。





トリビュートWTCビジターセンター

トリビュートWTCビジターセンター跡地

[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

更新が遅くなって、申し訳ありません。

<本日の流れ>

- ・ドイツ学生とのディスカッションのプレゼンテーションの準備、練習
- ・ドイツ学生と被爆者講演
- ・ドイツ学生とのディスカッション

本日はドイツの大学生とのディスカッションイベントがあり、私はそこでプレゼンテーションを行いました。その準備や会場設営のため、早くに会場入りをし、ドイツ学生と共に被爆者の方のお話を聞きました。皆が真剣な眼差しでお話を聞いているのが印象的でした。

私たちのプレゼンテーションのテーマは「日本の原子力」でした。ドイツでは福島第一原発の事故後、「2030年までに脱原発をする」という政策をとりました。日本では、いまだ事故が収束せず、原子力政策は「原発ゼロを目指す」から「可能な限り減らす」に転換するなどの現状があります。この2つの国の政策の違いを踏まえたディスカッションをしたいと考え、このテーマにしました。英語でのプレゼンテーションはとても緊張し、何度かつっかえましたが、つたない英語でも皆真剣に聞いて下さり、終わった後は「お疲れ様」と、声をかけて下さり、嬉しかったです。反省点も多々ありますが、大勢の人の前で、このように発表をする機会はなかなか無いので、とてもいい経験になったと思います。

ディスカッションは3つのグループに分かれて行いました。私たちのグループでは、福島の事故当時に考えたことや放射線の人体への影響と、それを懸念した人々の不安や差別についての意見が出ました。「あれから69年経ったにも関わらず、広島・長崎で被爆者

の方が受けた苦しみと同じことが現在の福島で起きている。」という内容の意見が最もドイツ学生に響いたのではないかと思います。ディスカッションでドイツ学生から様々な質問が出て、私自身まだまだ知識が足りないと実感しました。長崎から福島を考えると少し遠いことのように思いますが、世界から日本を見ると、福島原発事故に関心が高いので、日本人として、また平和を訴える者としても、もっともっと知らなければならぬと強く感じました。

一方で、ドイツと日本は共に核の傘の下にある国という共通点があります。今回のプレゼンテーションやディスカッションでは、この事についての深い議論があまりできなかったのですが、今後も連絡を取って共に考えていけたら、と思います。

本日のイベントを通して、多くの方の様々な意見を聞き、とても刺激を受けました。反省点を次に活かして、勉強などを頑張っていきたいです。

Go back to top

No.5 Thursday, 1 May

< 本日の活動 >

- ・ Martin Luther King Jr high schoolの訪問 (Hibakusha StoriesとPeace Boatの共同プログラム)
- ・ ICRCの方、ICANの方との面会
- ・ 5月2日のドイツ学生とのディスカッション準備
- ・ 長崎県人会ばってん会との夕食会

被爆者の方、長崎市長、トルーマン大統領のお孫さんのダニエルさん達に同行させて頂き、高校訪問をしました。日本の学校と違い、セキュリティチェックが厳重で、驚きでしたが、これもお国柄なんだろうなと思いました。

約300人もの生徒との授業が始まり、アイスブレーキングを兼ねて、キャサリンが「ご飯を食べるのが好きな人は手を挙げて」と生徒に質問しました。簡単な質問から徐々に「核兵器保有国はどこかわかる人は？」などの発問をし、生徒の注意を被爆者の方に向け、集中力を高めていきました。予想以上に生徒が原爆について知っていたことに驚くとともに、キャサリンの授業展開が素晴らしくて、感動し、とても勉強になりました。今後の教育実習や教職に就いた際に活かしたいです。

高校生は被爆者の方のお話を真剣な眼差しで聞いていました。時には涙ぐみ、ショックを受けて口を開ける表情などを見て、改めて被爆者の方の証言の重さを感じました。

夜は長崎県人会のばってん会との夕食会でした。市長ご一行と共に招きして頂きました。長崎弁が飛び交う夕食会は、「チーム長崎」という一体感があり、とても温かく、頼もしくもありました。私がお話させて頂いた方と、「周囲の関心と呼ぶような、核兵器について考えるイベント」を構想しました。「核兵器の問題は難しい」などと考え、この問題から距離を置く人々へのアプローチで、核兵器の問題について考えてもらうきっかけとして、話題性のある面白いイベントを行うのはどうか、というお話を頂きました。ぜひ帰国後のイベントとして、さらに詳細を考えたいと思います。

その他にも本当に多くの貴重なお話や情報提供をして頂きました。沖縄の基地問題について活動されている方や、NY沖縄県人会の方とのつながりを作ってくださいなど、私の為を思い、親身になって接してくれました。

NYに来て多くの方とお話をし、繋がりを持つことができました。繋がりがまた新たな出会いを運び、更に繋がる、このような人と人の繋がりや出会いの大切さを日々実感しています。出会った人々に感謝し、今度は私が、別々の場所で出会った方々を繋げることができたら、と思います。

早くも残り2日間となりました。あっという間に1日が終わり、またすぐに始まる、そんな忙しくも充実した日々を過ごすことができとても幸せです。最後まで全力で臨みたいと思います。



ばってん会との夕食会

マーティン・ルーサー・キング・Jr高校訪問



ドイツ学生とのディスカッション準備

[Go back to top](#)

No. 4 Wednesday, 30 April

本日はアメリカのガバメントブリーフィングと広島県のサイドイベント、ピースデポのサイドイベントに参加し、その後ビデオ企画のインタビューを行い、夜はピースデポとの夕食会でした。

先日から「積極的に多くの人と関わりたい」と書いていましたが、サイドイベントなどであまり積極的に発言ができなっていたので、長崎市長から励ましのお言葉を頂きました。

「準備してきたことを完璧に行うことが100%だとすると、滞在中の活動の方が200%、300%、それ以上の成果を得る可能性がある。失敗を恐れて行動できずに後悔するより、行動を起こした方がいい経験になる。もし、失敗してもそれが成長に繋がる。」という内容でした。

きちんと伝わらなくても、行動に移さないともったいない。NYでの活動も残り半分を切りましたが、後悔しないように、「考えるよりも実行していこう」と思いました。

お話を聞いた後、被団協の方やドイツ学生とお会いした際、積極的に話すことができました。特に、ドイツ学生との会話では、いつもながら緊張して上手く話せませんでした。が、上手な英語でなくても表情やジェスチャーなどを交えて、伝えたいことを伝えることができました。何よりも、つたない英語でも自ら話しかけることで、お互いの距離が縮まった気がします。私自身も、とても楽しく会話することができました。

長崎市長を始め、多くの方に応援して頂いていることを忘れずに、悔いの残らないよう、残りの時間を一生懸命過ごしたいと思います。



ビデオ企画 ドイツ学生へのインタビュー

Go back to top

No.3 Thursday, 29 April

本日はJapan Society主催の「高校生と被爆者の交流」イベントと、平和首長会議、Hibakusha Stories、Peace Boat、RECNAのサイドイベントに出席し、メイン会場でNGOプレゼンテーションを傍聴しました。

核廃絶を目指す方のお話を聞く機会が多くあった一日で、特にサイドイベントでは「核廃絶を実現させよう！」という気持ちで会場が一体になったように感じました。被爆者の方のお話を多く聞いたこともあり、私自身も核廃絶に向けて活動への意欲が更に高まりました。

夜はキャサリン主催の夕食会にお招き頂きました。「愛」に溢れた温かい空間で、被爆者の方、長崎市長と核廃絶に向けて取り組んでいらっしゃる多くの方が集まり、お話をさせて頂きました。

お話を頂いた方の中でも、「原爆の恐ろしさや核廃絶を伝える新しい方法を探さなければならぬ。」と、映画やキャンペーンを行っていらっしゃる平和特派員の方のお話が印象的でした。

被爆から69年経った今でも核廃絶が実現できていないことを考えると、私達若者が被爆者の方のお話を継承していくことに加え、何か人々の興味をひくような新しいアイデアで核廃絶を訴えていく方が良い、というお話をさせて頂きました。長崎市長が平和首長会議で仰っていたように被爆者の方の証言が最も影響力があり、恐らく私たちは被爆者の方のお話を直接聞くことができる最後の世代です。その私達が次の世代に何をどう伝えていくべきか、これは長崎で活動をしている時から私が自問していることです。今すぐにはなかなか答えが出ない難しいことですが、ここNYでの経験や多くの方とのお話の中で何か見つけることができれば、と思います。



平和首長会議



Japan Society主催「高校生と被爆者の交流」



軍縮教育家キャサリン主催 夕食会

[Go back to top](#)

No.2 Monday,28 April

本日からNPT再検討会議第3回準備委員会が始まりました。厳重なセキュリティチェックや入場許可証の作成を経て、国連の中に入りました。国連の建物はとても大きく、芸術性があり、そこに様々な国の人々がいて、私はこれから始まる会議や新しい出会いに期待し、胸を躍らせました。会議が始まり、議長挨拶や各国のStatementを1時間ほど傍聴し、NY育英学園小学部へ移動しました。

小学校を訪問し、平和の授業をしたいと応募当初から考え、これまで準備を進めてきました。今回は、NY育英学園小学部の5,6年生、計18名の子ども達の85分もの貴重な時間を頂きました。

大まかな内容としては、子ども達に「平和」と「平和を案内すること」（平和な世界を導く方法）について考えてもらいました。子ども達は広島や長崎に原子爆弾が投下されたことについて、まだ学習しておらず、今回が初めての原子爆弾の脅威を知る機会だったので、あまり強いショックを受け過ぎないように、授業構成を工夫しました。

まず、長崎の現在の平和活動を紹介し、その活動が始まった背景に原子爆弾が投下されたことがあり、そのような背景があって現在の平和活動がある。「長崎ではこうだったが、NYではどうだろうか」と子ども達自身が思い描いた平和を実現するためにはどのような方法をとるべきか考えてもらい、過去から現在、そして未来に繋がるような構成を意識しました。

実際に授業を行ってみて、上手いかなかった点もありましたが、素晴らしい子ども達のおかげで、良い授業になったのではないかと思います。特に、「平和」と「平和を案内すること」についてのグループ討論では、積極的に子ども達が様々な意見を出し、議論してくれました。挙がった内容には、「平和とは共存すること」や「平和は自由であること」など深い内容が多く、中身の濃い議論をされていて、驚きや感心と共に、私自身とても勉強になりました。

緊張もあり、私自身を評価すると決して納得のいくものでは無いですが、素晴らしい子ども達が授業をより良いものにしてくれました。私自身の反省点が多かったのですが、何よりも子ども達に出会えて、素晴らしい時間を過ごせたことをとても嬉しく思います。

今回の経験は、私にとってかけがえのない、本当に素晴らしい経験でした。今後、ビデオを確認してきちんと反省を行い、反省を次に活かしたいと思います。ご協力や応援して下さい。皆さん、本当にありがとうございました。

その後、国連に戻って1,2時間本会議の傍聴をし、夕方から日本政府のレセプションパーティーに参加させて頂きました。普段はお会いできない方々とお話できた貴重な時間でしたが、「英語に自信が無くても積極的にコミュニケーションを図る」という目標をあまり達成できなかったように思います。スタートダッシュが遅い上に、一人で初対面の方に積極的に話しかけることやその後の会話でも、消極的になっていたからです。先輩について行って、話を聞くことが多く、特に外国の方に一人で話しかけることができませんでした。

今ブログを書いて振り返りをしてみると、何でもったいない時間を過ごしていたのだろうという気持ちでいっぱいです。もちろん、お話をした方々との素敵な出会いがありました。しかし、もっと多くの方とお話をし、今後の繋がりができる良い機会だったのに、と後悔しています。今回のような悔しい思いをしないよう、明日から恥ずかしさを捨てて、積極的に人々と関わっていこうと思います。

今日は、勉強になったことや刺激を受けたこと、感じたこと等が盛り沢山の一日でした。まとまりがなく、反省ばかりの長文になってしまい、申し訳ありません。明日からは良い報告ができるよう頑張ります。読んで下さり、本当にありがとうございました。



国連会場

全日制日本人学校 NY育英学園小学部 NJキャンパス



授業の様子1

授業の様子2

Go back to top

No.1 Sunday, 27 April

本日から本格的に、その日の出来事や感じたこと等を中心にこちらのブログに書きます。言葉遣いや英訳など至らないところも多いかと思いますが、読んで頂けたら幸いです。

今日は午前中に、Hibakusha Storiesのキャサリンとイベントの出欠確認など打ち合わせを行いました。日程確認に加え、それぞれがNYで感じたことを知ることができ、明日からの活動イメージがより明確になりました。

午後には、BANgのメンバーであるクリスチャンと核問題に関心がある若者達と公園でピクニックをし、交流を深めました。

様々なバックグラウンドを持つ同年代の方とお話ができ、とても刺激を受けました。特に「若者には活力があり、柔軟な視点で物事を捉えることができるので、その視点や新しい発想を活かそう。」という内容が胸に響きました。と言うのも、私自身、まだまだ積極的に、エネルギーに行動できていない、と感じていたからです。未来を担う私達若者が、若者ならではの視点や発想をもっとフル活用すべきだと強く感じました。そして私自身も、前回のブログで挙げたように、積極的に多くの人と関わり、意見交換をしていきたいと改めて思いました。

夕方から、明日のNY育英学園小学部での授業の最終確認を行いました。いよいよ明日、授業をする自分を思い浮かべると、少し緊張や不安もありますが、何よりも子ども達と会えることがとても楽しみです。私は小学校教員を目指し、教育学部で勉強をしていますが、このような機会を頂けることは、滅多に無いことで、教員を目指す者としても、「平和」を訴える者としても、とても良い経験になると思います。このような最高の機会を下さった方々、応援して下さる方々に感謝し、悔いの残らぬよう、精一杯頑張ります。

I'll write day's incidents and my feelings in a blog from now on. I hope that many people read the blog.

This morning, we met Kathleen who is the leader of Hibakusha Stories. And we checked our event schedules and shared our feelings in NY. That makes my activity images clear.

In the afternoon, we went to a picnic with the youth who is interested in nuclear issues. I was very exciting because they are so many different background and views from me. I thought that youth should spread their new idea and view. And I want to discussion with many people.

In the evening, we prepared of tomorrow's peace class in Japanese elementary school. I'm a little nervous and worry about the class. But I hope to meet children in the Japanese school. I think that experience should makes me growing. I appreciate giving me this valuable opportunity.
Thank you for reading.



学校訪問の準備

[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 24 April

こんにちは。
ナガサキ・ユース代表団2期生 教育学部2年の新崎さくらです。

これからNY行きの飛行機に乗ります。

現地での、私の目標は、『積極的に行動し、且つ多くのものを吸収すること』です。

私は英語にあまり自信がありませんが、だからと言って受動的になるのはもったいない事だと、これまでの事前学習で強く思いました。「英語が流暢である事=国際的ではない。語学はあくまでもコミュニケーションツールだ。」と大学の先生から教わりました。英語力に自信がなくとも、笑顔とジェスチャーなどを交え、積極的に多くの人と関わりたいと思います。

そして、出会った人や物事から、できるだけ多くを得たいです。

今回の素晴らしい機会を頂けた事、応援してくださる人への感謝を忘れずに、精一杯頑張ってきます。行ってきます。

Go back to top

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

 recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/yukos-blog

Yuko's Blog ~私の言葉で、ありのままに伝えます。~

No.7 Monday, 6 May

日本時間の昨晚、帰崎いたしました。

NYで学び、考えたこと、そして私の信念を簡単にではありますがここで伝えたいと思います。

《結論》

世界は変わる、否、変えられる。

《理由》

人々はみな、平和を望んでいるから。

ここで一番伝えたいのは、【核保有国やその傘の元にいる国も、平和な世界を創りたいと願っている】ということです。

世界には核保有国、核の傘にいる国、そして非核保有国があります。

非核保有国は核廃絶という手段によって、平和な世界を創りたいと願っているのは明らかです。

しかし同時に、核保有国やその傘の元にいる国も、核保有という手段によって平和な世界を創りたいと願っているのではないかと私は思うのです。

なぜなら、核を保有するということは自国や同盟国の安全を守るためだからです。核の傘にいる国についても、保有こそせずとも核で安全を守られたいと考えています。

つまり両者も、平和な世界を創りたいと願っていると言えるのではないのでしょうか？

核兵器という方法の善悪はさておき、「平和」という人類共通の願いは不変です。だからこの原点に立ち返ると、平和な世界に変える方法はたくさん見えてくると思います。

《世界を変えるためには？》

1.YesNoより、なぜかを考える

2.市民社会が主役になる

まず前者について、物事を善悪で議論してしまうと、議論はいつまでも平行線を辿ってしまい答えは出ません。人それぞれ異なる意見を持つのでそれは当然です。

ですから、なぜかを考えなければならないと思います。なぜ？という問いなら、意見の根拠が明らかになり、解決策が出てくるからです。

後者について、世界のほとんどを占めるのは政府関係者ではなく、市民です。私達のような若者やNGOの人々が多く参加していたNPT会議で、彼らの行動力や発信力はとても説得力があり、力強いと感じました。占める人口が多く、力強い動きを見せる市民社会が主役となっていけば、世界は変わるのではないかと思います。

《まとめ》

NYでの活動を多くの人々が応援・注目してくださったことは、私にとって大きな励みになりました。とりわけ、長崎から応援してくださる人々の存在は大きかったです。

自分が取り組んでいるこの活動が注目を浴び、期待されていることを身を以て感じました。皆様方の応援があってこそ、NYで頑張れました。お一人お一人に、心より御礼申し上げます。

きっと、いや、絶対に、核兵器よりも良い方法がある。
私はそう信じて、核兵器に対する様々な意見を学び検討しながら、あらゆる人々と共に世界を取り巻く核問題の解決法を模索していきます。
チーム長崎として、私はこれからも動き続けてゆく決意です。
いずれはチーム日本、チーム世界になるでしょう。

ー「そういえば、昔、核兵器なんてものがあったなあ。」
こんなことを思える日が、生きているうちに来ますように。



[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

今日が最後の活動だと思うと、非常に寂しく感じます...

今日は朝から、ヤングパグウォッシュの学生2名とお会いしました。
パグウォッシュというのはカナダの地名です。パグウォッシュ会議とは、全ての核兵器および戦争の廃絶を訴える科学者による国際会議です。
2015年11月に当会議の年次総会を長崎で開くということが決定され、それに際して繋がりを持つことを目的に懇談をしました。

学生達は日本を訪れたことがなく、被爆者の方とお会いしたこともないとのことでした。彼らが来崎した際には、被爆者の方との協力による新たな核廃絶への行動が加速したら良いなと思います。

私は、2015年には社会人になっているため、RECNAのメンバーやユース代表団としての活動はできません。しかし、個人的にこの会議に興味があるので、お会いした学生達と連絡を取りながら協力をしたり会議に参加したりしたいなと考えています。

午後は、ドイツから来た学生達と「原発」をテーマにディスカッションを行いました。
「福島事故があり、広島・長崎では原爆という形で放射能の被害があったが、原発についてどう思うか？」や「ドイツは、原発がたくさんあるフランスの隣だから危険」など、率直な質問や意見が飛び出しました。

ディスカッションの最後に参加者全体で出た意見を共有した際、「私達は平和という同じゴールを目指している」とドイツの学生が述べていたのがとても印象的でした。

原子力はウランやプルトニウムという、他でもなく核兵器の原料が使われています。それを考えると、原発の問題も核兵器の問題も表裏一体であり、私達の身近なところにある問題だと思います。

思い起こせば昨年、長崎の大学生500名に「核問題と原発のどちらに興味があるか」とアンケートをした際、原発の方に興味がある人が多かったことを思い出しました。
原発から入って核問題に興味・関心を抱いてもらうのも一つの手かな、とふと思いました。



[Go back to top](#)

No.5 Thursday, 1 May

今日も昨日と同じく、高校訪問をしました。
訪れた高校は、Martin Luther King Jr. Educational Campus です。
広い講堂に高校生が200名程度と被爆者の方が2名集まり、ニューヨーク在住の軍縮教育家キャサリン・サリバン氏の司会による講義が行われました。

講義には長崎市長もお越しになり、スピーチをなされました。
市長は繰り返し、「核兵器はこの世界に必要なのか？を自分の頭で考えて欲しい」とおっしゃっていました。その背景には、広島・長崎が核兵器の被害を受けていることや被爆者の方々による「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」の行動があるからだと思います。

「アフリカでもヨーロッパでも二度と核兵器が使用されないためには、原爆についての事実を知ることが大切。知ろうとする努力が大切だ。」と訴えかけていた姿がとても印象的でした。私も周りの人やこれからの人生で出会う人々に、被爆者の方から学んだ事実を伝えて行こうと思います。

この高校訪問の中で最も心に残ったのが、トルーマン大統領のお孫さんに質問ができたことです！！

私は、日本に原子爆弾を落とした大統領を祖父に持つことをどのように感じているか？と率直な質問を投げかけました。

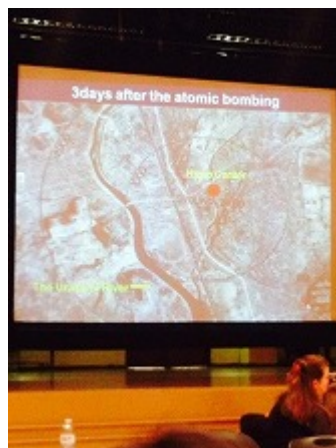
彼は穏やかに「被爆者の方のお話に耳を傾けることに対する責任感を感じている。彼らはとても良い人々だから、寄り添っていきたい。」と答えてくださいました。

大統領の孫としての責任感なのか、それとも単に一人の人間としての答えなのかはわかりません。しかしこのお答えには、二度と核兵器の被害を受ける人を出したくない、平和な世界を創るために行動したいという強い思いが感じられました。

さて、私は明日で活動が最後となります。

長いようであっという間でした。最後の日は自分がずっと主導してきたドイツの学生とのディスカッションが行われます。

和気藹々と、かつ有意義な議論ができるように、全力で頑張ります！



[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 30 April

とうとう水曜日。国連での活動も折り返しの日になりました。

今日は活動を通して思ったことと、もう一つ、皆さんに質問があります。

一気に書くと長くなってしまいますので、今日の記事は活動報告と、質問の2つに分けて書きます。

それではまず活動報告からです。

今日の午後は、マンハッタンにあるfashion industriesという高校に行き、被爆体験を聴く授業に参加しました。

世界にある核兵器の数や核保有国はどこか、そのような基礎的な知識を先生が軽く導入として述べた後に、広島・長崎からお越しの被爆者の方より被爆体験講話がありました。

講話の中で印象的だったのは「戦争は、世界中のお母さんを悲しませる」という言葉です。戦争は、自分の子どもを戦争に駆り出す。食糧不足で苦しませる。そして、亡くならせてしまう。だから戦争はお母さんを悲しませるんだよ、との意味です。

お腹を痛めて産み育てた子どもがもし戦争でなくなったら？そう考えると、子どもがいない私でも胸が張り裂けそうなくらいつらくなります。

また、もう一つ印象的だったのが「アメリカに憎しみはないが、核兵器を持っている限りは許せない」という言葉です。その被爆者の方は日本が戦争に負けた当時、戦争が終わったことを嬉しく思われたそうです。なぜなら、空襲に怯えて外で遊んだり、勉強の邪魔をされなくなったからです。しかし、原子爆弾という核兵器の被害を受けているので、核兵器は許せない。そして、多くの人を傷つけた核兵器を保有しているアメリカは保有し続ける限り許せないんだとおっしゃっていました。

「ヒバクシャというのは特別な言葉。ただの生き残りではない。」

授業の冒頭で先生がおっしゃった言葉が忘れられません。

身を持って核兵器の凄惨さを体験なさっているからこそ、核廃絶の必要性を訴えることができるのだと感じました。

核兵器には抑止力があり、ゆえに核兵器は必要だという意見があります。もちろんそれは一理あります。しかし、現実には被害を受けた方のお話を直に聴くと、核兵器以外の方法はあるのではないかと、思うのではないのでしょうか。

そんなことを考えた1日でした。





[Go back to top](#)

No.3 Tuesday, 29 April

ー市民の力は大きいと感じた1日でした。

考えて今朝は平和首長会議、午後からはNGOサイドイベントと本会議NGOプレゼンテーションの傍聴と盛りだくさんでした。

平和首長会議とは、被爆地である広島や長崎の市長や平和活動を行っている若者の行動を、普段そこに来られない世界各国の方々のためにシェアする場です。

いろんな国から多くの人に参加しており、被爆地における平和活動が注目され、世界の人々も平和に向けて活動したいという強い思いが伝わってきました。

午後のNGOサイドイベントは、divestmentについてのものでした。

investment = 投資する、の反対の訳ですが、どういう意味かご存知ですか？

これは、自分が銀行に預金したお金が、銀行によって核兵器の製造や流通に寄与している企業に投資をされているかもしれない。つまり、意図せぬところで核兵器と自分のお金が繋がっているということです。

核兵器と自分のお金が繋がっていると考えることは、非常に新鮮で新しい視点だと思います。これを防ぐためには預金をしない方がいいのか、それともその企業への投資を防ぐべきなのか、私自身帰結がわからないので、これからも詳しく勉強していきたいと思います。

このサイドイベントが終わってからは、NGOプレゼンテーションによる本会議を傍聴しました。被爆者の方、広島市長、長崎市長などがスピーチを行いました。

被爆者の方は被爆体験から「核兵器のない世界へ」と、広島市長も「核兵器は廃絶しなければならない」と、長崎市長はナガサキ・ユース代表团や広島県の高校生（平和大使）のような若者の平和活動に言及し、「2015年のNPT再検討会議で核なき世界の実現に向けて良い結論を出せるように期待」とおっしゃっていました。

被爆地に住む私たちの意見を代弁してくれたかのような、とても励みになるスピーチでした。被爆者の方、被爆地の市長、そして私達のような若者が核なき世界の実現に向けてリードしていきたい...そんなことを考えました。



[Go back to top](#)

No.2 Monday,28 April

ー今日は、「平和って何だろう?」と「真実って何だろう?」を考えた1日でした。

今日の午後は、ニュージャージー州にある日本人学校へ平和教育の授業をしに行きました。小学校5,6年生を対象に、「平和とは何か?」と、それを実現するために何ができるかを考えてもらいました。

最初は個人で考えて、そのあとはグループになって個々の考えをまとめてもらう作業をしました。

人それぞれいろんな「平和」の形がありますが、私の目に止まったのは「平和=共存、人種差別がないこと」という答えでした。

アメリカは多くの人種や文化が「共存」しているからであると思われるが、アメリカならではの非常に興味深いと感じました。

それと同時に、児童たちが平和について考えているその姿自体が「平和」そのものに見えました。

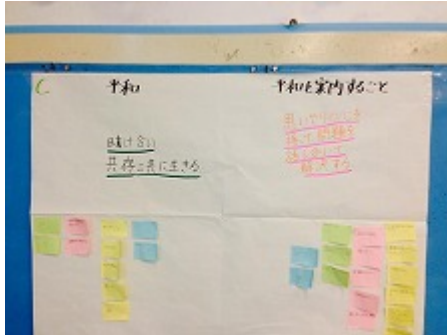
授業が終わった後は、日本政府主催のレセプションパーティーに参加し、軍縮・不拡散を担当する日本政府の方に「核物質の転用」について質問しました。

核物質の転用とは、核エネルギーであるウランやプルトニウムは核兵器に作り替えがられることです。しかも、日本は先進国で唯一原子力発電所で働く従業員のID(身分証明)を調べる制度がないため、仮にテロリストなどの危険な従業員の手に渡ると非常に危険であるということが世界的に危惧されています。

世界は日本に対して「警備を強化すべきでは?」とか「危険に対する認識が甘すぎる」と言います。しかし日本政府の方は「管理についてのガイドラインや条約の面から見る

と、我が国は基準をクリアしている。確かにIDや警備の強化は改善の余地があるが、マスメディア側は国民の受けを考えるから基準をクリアしていることを報道しない。」とお答えなされました。

答えになっているような、そうでないような、もやもやが残ります。
真実は何だろう。もっと勉強して、政府の方の意見を聞いて、自分の頭で考えなければと思いました。



Go back to top

No.1 Sunday, 27 April

今日は午後から、私たちユース代表团と、NGO BANgのクリスチャンを初めとする海外の若者とのピクニックをしました。

お互いの自己紹介のあと、今後BANgが行うイベントや彼らの行動計画についての共有がありました。

ピクニックの後は、私は明日行われる日本人学校での平和教育の最終打ち合わせをしました。

流れや持っていく物の確認、通しの練習を行い、本番のイメージトレーニングを行いました。

本会議傍聴という仕事の他に、日本人学校での平和教育が、私の担当する初めての仕事です。

緊張もありますが、児童たちが平和とは何かを考え、積極的に平和を創造していく人材になるよう、精一杯の授業をしたいと思います。

さて、明日28日からがいよいよ本番です。

英語が難しく、心が折れそうになる時もあるでしょうし、スケジュールのハードさにクタクタになることもあるかと思います。

しかしそんな時こそ、「自分は何のためにユース代表团として活動しているのか？」を思い出し、決して折れたり諦めたりすることなく、自分にできることを精一杯やってみようと思います。



[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 24 April

先程NYに到着し、ホテルでブログを書いている田平です。
これからの仕事に一抹の不安を覚えるとともに、自分がこれを成し遂げた時にどう変わっているかに、とてもワクワクしています。

私は今回このブログを読んでくださる方々に「内なる問いかけ」ができたらな、と思います。

世界には核保有国や核の傘にいる国、非核国があり、核兵器ひとつとっても様々な意見や考え方があります。

核兵器に関してはもちろんですが、これからの世界を創造する主体である人間一人ひとりはどう行動したらよいのか。

これらを、私の経験の共有から少しでも考えてくださったり、世界を取り巻く核問題に興味を抱いてくれたら、ナガサキ・ユース代表団冥利につきます。

私は核問題を本格的に学び始めてまだ1年弱なので、精通しているとは言えません。

しかも難易度の高い問題であるので、全てを一気に理解するのは至難の業です。

そんな中、挑戦するからこそ、自分の人生にとって大きな糧になり、世界を少しでも変えいく原動力になると私はしんじています。

それでは、次の報告もご期待ください！

写真はNYのGrand Central Terminal です ^ ^



[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

 recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/chisas-blog

Chisa's Blog ~Chisa's NPT blog~

No.8 Tuesday, 6 May

<本日の予定>

本会議傍聴

マウントサイナイ医科大学ロバート柳澤先生と面会

早いもので、私の活動最終日でした。

午後はマウントサイナイ医科大学病院に出向き、ロバート柳澤先生にお会いしてお話を伺うことが出来ました。ロバート先生は、米国在住の内分泌内科の専門医でありながら、東日本大震災が起こった後素早く現地入りし、緊急医療支援を行いました。また、被災者、特に子供のメンタルヘルスの重要性を訴え、継続してメンタル面をサポートする活動を行っています。この面会は元々私が希望し企画したものであったのですが、実現までにいろんな方のお世話になりました。

まず、この企画を立てた経緯をご説明します。

私は、以前からマウントサイナイ病院に興味がありました。それは、この病院が4/29のブログで触れた笹森さんをはじめとする原爆乙女を治療した病院だったからです。ユースに決まった時、この病院のことを思い出して、ぜひ訪れたいと思っていました。しかし、実際にはアポ取りを出来るようなツテが見つからず、ほとんど諦めかけていました。そんな中、今年3月、所属学部のプログラムで福島県立医科大学を訪れ研修を受けたのですが、その前準備として同大学について調べている中で、頻繁に”マウントサイナイ病院のロバート先生”のお名前を見かけるようになり、病院に対する興味をきっかけに先生ご自身の活動に関心を持つようになりました。そこで、研修中お世話をしてくださった県立医大の熊谷先生にお願いして、面会の時間をいただけるようかけあっていただけ、実現に至りました。この場をお借りして、福島県立医科大学・熊谷先生をはじめ、その他自分のネットワークを駆使してマウントサイナイとの繋がりを探してくださった多くの先生方に感謝申し上げます。

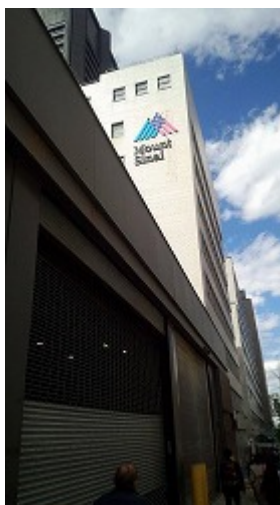
このように、今回の面会は、”元々この病院自体に興味を持ったこと”、”研修で福島を訪れたこと”そして”NYへ行ったこと”という、お互いに全く関係のない、私の人生の中での3つの点が、人と人との繋がりによって綺麗に一つの線で繋がった結果生まれたものでした。

そして、この出会いがさらにまた一つ、新たな点（出会い）を生み出してくれました。実は5日のTribute WTC visitor center 訪問は、ロバート先生が私たちに家族会の方を紹介してくださったことで実現したのです。マウントサイナイ大学病院が9.11の犠牲者遺族、救援活動に参加した消防士や警官の長期支援を行う医療機関の中核を担っていることから、ロバート先生と9.11家族会には親交がありました。3.11が起こった時、東北の被災者のために何かしたいと考えた家族会の方々はロバート先生らに相談を持ちかけ、

それがきっかけで一緒に東北へ出向いて支援活動をしたり、禎子の折り鶴をモチーフに、WTCの鉄骨を使って折り鶴を模したモニュメントを作り、岩手県に送ったりしたそうです。

この2日間を通して、一見関係ないようでも、全ての点は一つの線で繋がるということ、そして、人と人との絆がそれらの点をつなぐのだということを感じました。

今回ナガサキユースとして活動出来たことは、とても大きな経験になりました。この経験が、私の人生の中で、次はどんな点に繋がっていくのか、とても楽しみです。この活動期間を通して出会えた全ての方々とのご縁を大切に、これからまた一步一步、進んで行きたいです。これまで私の拙いブログを読んで応援してくださり、本当にありがとうございました。



[Go back to top](#)

No.7 Monday, 5 May

更新が遅くなり、申し訳ありません。

本当に色々なことを感じた日だったので、それをどう言葉にしたら良いか分からず、なかなかブログをかけませんでした。今もまだ上手にまとめられるほど整理がついていないため、長文になりましたが、自分の気持ちに正直に書きましたので、読んでいただけたらと思います。

<本日の予定>

＊9.11Tribute WTC visitor center 訪問

＊本会議傍聴

午前中、9.11 Tribute WTC visitor center を訪問しました。これは、9.11の家族会の方が、記憶を後世に伝えて行くためにと建てた祈念資料館です。

たくさんの遺品や関連資料の展示がありましたが、特にハイジャックされた飛行機の乗客が、亡くなる直前に奥さんに電話して伝えた実際の言葉や、WTCに勤めていた女性がまだ小さな女の子だった時にお母さんに宛てて書いたラブレターなどを目にした時に

は、涙が止まりませんでした。そこには、その人が実際に生きていた証、そして誰かを愛していた証がはっきりと示されていて、それが突然奪われた悲しみを思うと、言葉になりませんでした。

実際に現地を訪れ自分の五感を使って感じ取るのと、ただ人から話を聞くのとでは、感じる気持ちの幅が全然違うと身を持って実感しました。また、同時に、先日聞いた”核兵器の抽象性”の話を思い出しました。詳しくは私の5月1日のブログに書いてあるのですが、「NPTの中で各国代表として議論をしている人の大多数は実際に広島長崎を訪れていない。だからどれだけ核兵器は破壊的で恐ろしい兵器だ」といっても、彼らにとってはどこか抽象的なものだ」というのです。

その言葉を聞いた時、ずっと被爆地に関わってきた私には、その”抽象性”を想像することが出来ませんでした。しかし、今はよく分かります。私にとっての9.11が同じだったと気づいたからです。―「ハイジャックされた飛行機がビルに突っ込み、3000人以上が亡くなった悲しいテロ事件」―という私のこれまでの認識は、確かに間違っていないけれど、亡くなった方の人生や愛する人への気持ちまでは具体的に思いが至っておらず、どこかぼやけたイメージでした。

自分で実際に経験していないことには、どうしても抽象性が残ります。時間的、あるいは空間的隔たりの大きさに比例して、それはどんどん高まってしまうように感じます。こういった自分の気持ちを、館内を案内してくださった家族会の方に話してみると、全く同じように感じるとおっしゃられました。9.11の方でも、いかにして風化を食い止めるか、事件の後に生まれてきた子供達にこの事件をどううまく伝えていくか苦心しているところだそうです。理由は違えど、もう2度とこのような悲しいことが起きないように願う気持ちや、その風化の問題に不安を感じていることは、原爆も9.11も一緒です。どうすれば風化させずに後世に伝え続けていけるかを、一緒に考える場を設けられたらと思いました。

ここまで悲しい展示についてフォーカスしてきましたが、展示の中には、明るい希望の見える展示もありました。あまり知られていない事実ですが、広島市の平和のシンボルである佐々木禎子さんの折り鶴が一羽、このセンターに寄贈されているのです。この折り鶴は、9.11の後、”起こった出来事は違っても、痛みを分かち合う気持ちは一緒だ”として、禎子さんのお兄さんが持って来られたもので、9.11で傷ついた多くの人々を慰め、勇気付けてきたそうです。そして、そのお返しに、”今度は自分達が誰かを勇気付ける番だ”と、9.11家族会の方々は3.11東日本大震災の被災者を支援する活動を始めました。詳しいことは5月6日のブログで書かせていただきますが、原爆と9.11そして3.11、一見関係のない3つの出来事でも、それらは痛みを分かち合い、その心に寄り添いたいという、人間同士の温かな絆で強く繋がっていました。

現在、9.11と広島との繋がりは構築されていますが、長崎とはまだとのこと。今回の私たちの訪問を、長崎と9.11の繋がるきっかけとして、人間同士の平和の絆をより一層強めていきたいです。



[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

<今日の予定>

Virginia Gamba, the director and deputy to the high representative office for disarmament affairsとの面会

ノルウェーの学生と交流

ドイツの学生とのディスカッション

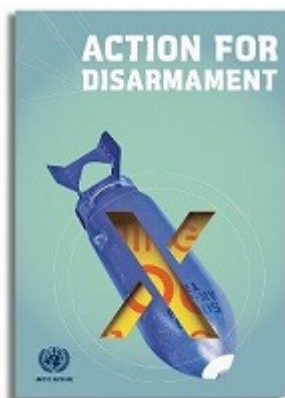
今日はUNODA(UN Office for Disarmament Affairs= 国連軍縮局)のVirginia Gamba 氏との面会の時間を得ることができました。国連軍縮局とは、軍縮、不拡散、軍備管理といった問題を扱う国連内の局で、軍縮分野における規範を設定するため、実質的かつ行政的支援を提供しています。また、非核地帯など地域の軍縮活動も奨励しており、軍縮教育計画に力を入れています。

アルゼンチン出身の彼女は、1976年から7年間に及んだ祖国の軍政下国家テロによる人権侵害について触れ、「転換期を迎えることができたのは、生き残った人々が、自分のされたことを周りに地道に伝え続けたからだ」と言っていました。また、「ソビエト連

邦が存在していた頃、だれもまさかそれが崩壊するなんて思わなかったし、誰も東西ドイツが統合するなんて思っていなかった。だから、この世に”絶対”はないんだ」と話してくれました。

核軍縮の問題は、各国の国益や国際関係が複雑に絡み合っていて、NPT設立から長い年月が経った現在も遅々として進んでいないのが現状です。渡航前の事前学習に加え、実際に本会議を傍聴して現状を目の当たりにすればするほど、改めてその打開には気が遠くなるほどの努力が必要なのだと実感させられます。また、このような壮大な問題に対して自分がしていることは果たして意味をなしているのか？とってしまうこともあります。しかし、そのような中、彼女のこの言葉を聞いたことは、とても大きな励みになりました。

軍縮局は最近”Actions for disarmament 10 things you can do”という本を出版しました。その中で、核を含む様々な兵器の軍縮に向けて、私たち市民一人一人にできることや、具体的な取り組み方が提案されているそうです。近々日本語版も作られるとのことなので、出来るだけ早く手に入れて、微力ながら自分にできることを探していきたいと思います。



[Go back to top](#)

No.5 Thursday, 1 May

<今日の予定>

Martin Luther King Jr Educational complex,Manhattan 訪問

ICRCの関係者との面会

ICANの関係者との面会

アメリカの nuclear weapon modernization についてのサイドイベント出席

NY長崎県人会ばってん会との夕食会

今日の朝は、キャサリン・サリバンさん率いるHibakusha Storiesに同行して、高校生に被爆者の方が体験を話すイベントに参加しました。私は、米国の若者が原爆について実際にどのように学び、何を考えているか知りたかったので、この訪問をととても楽しみにしていました。

訪問前、私は「彼らは、広島長崎の原爆についてあまりよく知らないのではないか、あるいは知っていても原爆を正当化する習い方をしているかもしれない」と予想していたのですが、実際には、死者数などのデータだけでなく、被爆者の身に起こった様々な苦しみについても学校で学んでいたらしく、驚きました。特に、佐々木禎子さんを知っていると答えた人数がとても多かったことは、一番嬉しい驚きでした。

今にも泣き出しそうな顔で眉間にシワを寄せ、頷きながら被爆体験を聞いている女の子や、スクリーンに写った黒焦げの死体の写真を見て息をのんでいる男の子の横顔を多く見ることができました。終わった後、「核兵器を無くしたいと思った」という感想を聞くこともでき、来てよかったと心から思いました。

高校訪問の後、国連に戻り、ICRC（赤十字国際委員会）の女性の方と面会しました。ICRCは1945年から核兵器廃絶を表明して来ましたが、特に2011年には、それまでの政治的な問題における慎重な立場を脱し、核兵器の非人道性を理由に、廃絶を訴える力強い声明を出しました。

「これまで2回核兵器の非人道性についての会議が開かれ、その破壊的影響は多くの国が認めるといっているのに、核兵器を無くす方向への議論がなかなか進まない原因はなんだと思いますか？」と尋ねると、「“非人道性”はどうしても抽象的。核兵器が使われると大変なことになると言葉ではわかっているけど、実際には広島や長崎を訪れてその被害の実相を見てはおらず、実感のわかない人が大多数。そういう状況下では、各国の代表は、曖昧な“非人道性”よりも、目の前の締結文書で明確に示される“自国を守るための条約”にどうしても流れやすいのではないか」と答えられました。

この意見は目からウロコでした。私は今までずっと被爆地に住んできたので、原爆被害を見聞きすることが当たり前になってしまっていたけれど、世界では、このことは決して当たり前ではないのです。だからこそ、広島・長崎両市長が世界のリーダーに原爆資料館を訪れて欲しいと訴えつづけていることには大きな意味があるし、それは絶対達成されなければいけないと感じました。

これから被爆者数が減るにつれ原爆被害の“抽象性”はどんどん高まっていくでしょう。どうすればそれを食い止めることができるか、どうすれば風化させることなく次の時代に引き継いでいけるかをしっかりと考えなければならないと思います。



[Go back to top](#)

No.4 Wednesday,30 April

<今日の予定>

アメリカ政府のGovernment Briefing傍聴

本会議傍聴

広島県主催サイドイベント参加

企画本格始動

今日は、ようやく自分の企画を本格始動させることができました。

今まで書いていませんでしたが、私たちはこの準備委員会に参加して、ただ本会議を傍聴したり、サイドイベントに参加したりするだけではありません。事前に自分たちでイベントを企画して、こちらで実行しようと準備を進めて来ました。

私がメインで関わっている企画は、この準備委員会で出会う多くの人々にインタビューをしてそのビデオをとり、短いムービーを作るというものです。

インタビューの内容はただひとつ。「あなたが2015年に向けて達成したい目標を教えてください」です。なぜ2015年なのかというと、来年2015年は計3回の準備委員会を踏まえたNPT再検討会議の本会議が開かれる年であると同時に、広島、長崎への原爆投下からちょうど70年という節目の年でもあるからです。

インタビューの対象は、各国の軍縮担当官を含む、今回の準備委員会に参加している全ての人々。分刻みのスケジュールで動いている彼らを廊下で引き止め、インタビューへの協力を掴み取るのはなかなか難しいですが、残りの一週間も継続して続け、少しずつ進捗状況を報告していこうと思います。

NYは5月とは思えないほど寒く、特に今日は激しい雨風で大変でした。ちょっと風邪を引き気味なので、体調管理に気をつけて、これからも頑張ります。



Go back to top

No.3 Tuesday,29 April

今日は、これまでずっとお会いしたかった方との面会が実現しました。広島の被爆者で、原爆乙女の笹森シゲコさんです。

原爆乙女とは、原爆によって顔や身体にやけどを負った若い女性の総称ですが、狭義には1955年に渡米し、無償でケロイド治療を受けた25人の女性のことを指します。

笹森さんはそのうちのお一人で、治療を受けた後、彼女らの渡米実現のために尽力した故ノーマン・カズンズ氏の養女となりました。私は、中学時代、故郷広島の地元新聞の

ジュニアライターとしての活動の中で彼女の存在を知り、その生き方にとっても興味を持ちました。それ以来、いつもお話を聞きたいと思っていたので、今日は実に5年越しの希望が叶うことになりました。

私は、「何の罪もない自分の身体を深く傷つけ、人生を狂わせた国として、やはりどこかアメリカを憎んでしまうことはなかったのか？渡米して治療を受けることや、養女になると決めた時に、葛藤はなかったのか？」と尋ねました。すると笹森さんはとても優しい笑顔で「アメリカがいけないんじゃないの。戦争がいけなかったのよ。アメリカに来てから、本当にいろんな人に優しくしてもらった。目の前で人が転ぶと、とっさにその人を助けてあげたくなるように、人種や国籍に関係なく、人間はみんな温かな心を持っている。その心をもって人に接すれば、憎しみは生まれないの」と答えられました。

私はどこか、彼女の中でアメリカを恨む気持ちがあることを前提に質問をしてしまっていたので、その言葉を聞いてハッとしました。永井隆博士も「本当の平和をもたらすものは、ややこしい会議や思想ではなく、ごく単純な愛の力による」という言葉を残していますが、彼女の人生はまさにその言葉を示していると思います。私は、この考えに賛同します。私は海外に友人がいますが、彼らの住む国とは絶対に戦争をしたくないし、原爆を落として欲しくない。彼らが傷つくことなく、笑顔でいられることを心から願っています。幼稚な表現かもしれませんが、一人一人の中でそういった「自分の大切な人のいる国」が増えていくことが、平和な世界につながっていると思います。

そして、愛や優しさが本当に平和をもたらすものだということは、私たち若者世代が一番、平和な世界づくりをしやすい世代であるということを意味しているのではないかと思います。世界では、確かに今もなお戦争をしている国はあるし、宗教の対立なども無視することはできません。しかし、世界大戦を経験した私たちの二つ前の世代、冷戦による緊迫した国際情勢を経験した私たちの親の世代に比べれば、戦争を知らない私たち若者世代は、憎しみの感情がずっと薄い分、愛や思いやりを育てていきやすいと思います。

今日、平和首長会議のイベントで、平和を願う海外の若者たちとの素敵な出会いがありました。この出会いを新たな平和の種として大切に育てて行きたいと思います。

Go back to top

No.2 Monday, 28 April

ついに準備委員会の幕開けです。

委員会は、ついこの間長崎にきて、私たちユースへ向けて話をしてくださったばかりの、ペルーのモレイ議長という言葉と共に始まりました。その一番初めの声明の中で、私たちに話してくださった”realism: 核問題を楽観的にも悲観的にも捉えることなく、現実をまっすぐに見据え、解決策を考えていくこと”を改めて強調されていました。

今日明日2日間はGeneral Debateの時間です。これは、参加国の中で、他の加盟国に自分の考えをシェアしたい国が名乗りを上げ、順番に意見を言っていくというものです。

午前中は、インドネシアやマーシャル諸島、アラブ諸国を代表してイラクなどの国々が発表しました。私は、その中で、核兵器に対するスタンスがどうだったかうろ覚えな国がいくつかあったので、事前準備で使ってきた勉強資料で確認しながら意見を聞いていました。各国の読み上げる意見文は、各々の核兵器に対するスタンスを根底に、言葉を

厳選して作り上げた”外交”文書であるので、その真意を理解するには、まずスタンスの把握が必要不可欠です。ただ、一つの国が話すスピードはもちろん、間を置かずにすぐ次の国の時間が始まるので、ついていくのが大変でした。質疑応答や討論のないGeneral Debateでさえ大変なので、本格的に各分野の討論が始まると、各国が飛び交わせる意見に内包している意図を瞬時に読みとるには、それぞれの国のスタンスがしっかりと頭に入っていないと本当に難しいだろうなと感じました。

夕方からは、日本の吉川国連大使と面会する時間をいただき、その後、大使主催のレセプションパーティーに出席させていただきました。このレセプションは、大使をはじめとする日本政府関係者や各国の核軍縮担当官、報道陣、広島県代表团（県知事/市長/高校生など）、そして田上市長率いる私たち長崎県代表团といった、参加者総勢100人を超える大規模なものでした。幸運にも私は、その中でナガサキユースを代表してスピーチをさせていただくことができました。内容を日本語で考える段階から、本当に伝えたいことは何かを何度も自問し、悩み抜いてできたスピーチだったので、参加者の皆様が誰一人として話をする事なく、真剣かつ温かな眼差しを持って私のスピーチを聞いてくださったことにとても感動しました。スピーチ後、本当に多くの方からお褒めの言葉や感想をいただき、喜びでいっぱいでしたが、とりわけ、吉川大使やモレイ議長がわざわざ私の所に来て握手を求めてくださった時には、感無量でした。このような貴重な経験をさせていただけたことに、心から感謝しています。この経験を糧としつつ、謙虚な気持ちを忘れずに明日からまた一步一步進んで行こうと思います。



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 27 April

核問題に取り組む若者が集うピクニックに参加しました。集ったメンバーの出身や経歴はさまざまでしたが、共通するのは、みなそれぞれアプローチの仕方は違えど、どの人も核兵器を無くしたいと心から思って活動しているということでした。

その中でも私は特に、アレックスさんというコスタリカの女性からたくさん話を聞くことが出来ました。彼女は元々通訳をしていたそうです。この活動に取り組みはじめたきっかけを聞くと、通訳の仕事の中で、カザフスタンの核実験被害の実相を知る機会があり、そのときに「自分も何かしなければいけない」と強く感じたからとのことでした。私もちょうど昨年の夏にカザフスタンへ渡航し、セミパラチンスク核実験場で放射線被害の実態を視察してきたばかりだったので、彼女の感じた「何かしなければ」という思いにとっても共感できました。

核問題に携わるきっかけもその時感じた思いも人それぞれで、興味深かったです。もっと色々な人に会って話を聞きたいし、自分の話もシェアしたいと感じました。

もう一つ、今日出会ったメンバーに尋ねたところ、この問題に取り組んでいる彼らでさえも、今まで実際に広島や長崎を訪ねる機会があった人は少数でした。お金がかかるし、遠いからなかなか難しいといっている人もいました。そのような状況下では、今核問題に関心の無い人が広島や長崎を訪れる可能性はより一層少なくなるでしょう。もっと多くの人々が気軽に広島や長崎を訪れることができ、そして、その訪問が、アレックスさんにとってのカザフスタンのように、核問題に関心を持って何かをしたいと動き出すきっかけになって欲しいと思います。

Go back to top

No.0 Thursday, 24 April

こんにちは。

ナガサキユース代表団二期生の西田千紗です。

私は、広島で生まれ育ち、中高を通して平和活動に携わってきました。

私は、大学生の今、この会議に参加出来ることに大きな意味を感じています。大学生の今だからこそ、中高の時に比べよりアカデミックな視点から冷静に核問題に取り組み、目の前で繰り広げられる国際議論の動向を理解することができると思います。同時に、ただの大学生という、なんの肩書きもない若者だからこそ、多国間交渉の現場に根づいた複雑なしがらみに捉われることなく、フレキシブルに活動することが出来ると思っています。

とはいえ、恥ずかしながら、ユースに選ばれるまではNPTについて本当に微々たる知識しか持っていなかった私です。きっと学ぶこと、気付かされることばかりの2週間になるでしょうが、五感をフル活用し、精一杯色々なことを吸収しながら、一步一步大切に進んで行こうと思います。そしてその中で、少しずつ自分の故郷広島、そして新たに繋がりのできた長崎について発信していけたらと思っています。

渡米を目前に控え、これから得られる素敵な出会いや新たな学びに期待を膨らませています。これまでさまざまな形で私を支えてくださった全ての方々、そしてこのような貴重な機会をいただけたことに感謝しつつ...

NYへ、いざ行かん！

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/yunos-blog

Yuno's Blog ~Yuno's feeling~

No.10 Friday, 9 May

帰ってきました、長崎。

きつくも楽しくもあったニューヨークでの約2週間の生活が懐かしく思います。

10月にナガサキユース代表団が決定し、それから出発まで勉強会や専門家との議論を通して、今回のニューヨークでの活動の準備をしてきました。しかし、実際に現地で活動していくと、予定がころころ変わったり、知識不足、準備不足に気づいたり。

そして知識不足、準備不足を補うために、睡眠不足の日々が続くこともありました。普段長崎で生活しているときは、テスト前ですら、そんな時間までやってないよなという時間までパソコンやメンバーと向かいあったのは、今ではいい思い出です。笑

今回のニューヨークでの活動を通して、私が1番心に残っていることは“繋がり”です。NGOの方との繋がり、政府の方との繋がり、若い人との繋がり、県人会の方との繋がり、そして長崎との繋がり。この繋がり、また新たな繋がりを作り、どんどん広がっていきました。たぶん自分1人では、経験できなかったことが、このネットワークのおかげで経験できたことが1番の収穫です。

毎年同じようなNGO参加して、同じような軍縮担当の政府代表者が参加して、同じような議論が繰り返される。もっといろんな人が、この問題を議論すれば、前進していくのかなと思います。今回、得た繋がりを活用して、いろんな人がこの問題に関わっていけるようになればいいなと思います。

報告会5月20日18:30～です。
お時間があればぜひおいでください。



[Go back to top](#)

No.9 Wednesday, 7 May

更新が遅くなってしまって申し訳ありません。

今日でニューヨーク滞在も最後となりました。2週間近くいると、ニューヨークが恋しくなります。

今日の本会議は、なんとたった15分で終了いたしました。始まったのが3時、終わったのが3時15分。

こんなことがあるのは、別に驚くことではないそうです。

わたしは、それに驚きです。

本会議の内容は、議長のモレイ大使から、来年、2015年のNPT再検討会議に向けた勧告案が出されただけでした。

今日はニューヨーク最後ということで、日本(長崎だけかも?)にはあまり売ってないフルーツを最後の思い出に食べました。

この2週間、たくさんの経験ができたことにとても嬉しく思います。
長崎で応援してくださった方々、ニューヨークで助けてくれた方々、そしてナガサキユース代表団のメンバーに感謝します。ありがとうございました。



本会議場

[Go back to top](#)

No.8 Tuesday, 6 May

さてさて私のニューヨーク滞在も残り1日となりました。
明日で国連に行くのが最後かと思うと少しさみしい気がします。

今日はメキシコ、日本の代表者に会い、マウントサイナイ病院に行き、県人会の方々とご飯をご一緒しました。

いつもは国連の中での体験を書いているので、今日は趣向を変えて国連の外での体験を書きたいと思います。

私は大学のサークルで茶道部に入っています。私がニューヨークに行くということで、いつもお稽古をしてくださるお茶の先生が、お茶セットを持たせてくれました。

しかし、なかなかお茶を出す機会がない...と悩んでいたところ先日お会いした県人会の方が、和参という日本料理のお店で、お客さんにお出ししてみてもどうかという提案をしてくださいました。

お客さんにお茶を振る舞うのはとても緊張しました。しかしお店の方や県人会の方のご協力のおかげで、とてもいい経験ができました。

そして今回、また新たな県人会の方にもお会いすることができました。イベントを開く際にいかに人を集めるかについて教えていただいたので、今後の参考になりました。

県人会の方々とは、先週初めてお会いしたにも関わらず、とても親切にしてくださり、ニューヨーク滞在中本当にお世話になりました。

共通項がひとつあるだけで、こんなに繋がりが強くなり、またその繋がりに新たな繋がりにとどんどん広がって行くんだなと感じました。

私は県人会の方々から、”生き方”を学んだような気がします。薄っぺらい人生ではなく、充実した濃ゆい人生を送れるように、若いうちにたくさんの経験をしたいと思います。



[Go back to top](#)

No.7 Wednesday, 5 May

本会議二週目に突入いたしました。

日本は今GWですね。皆様いかがお過ごしでしょうか？

今日は、9.11メモリアルに行ってきました。ナガサキユースの活動は様々な人たちに支えられています。そしてどんどんネットワークが広がっているように思います。今回は、そんな”繋がり”から、9.11の遺族の会のメアリーさんとお会いできることになりました。

メモリアルは、ホテルから地下鉄で約30分の場所にあります。最近ようやく地下鉄に慣れてきて、自分で路線図を見て乗れるようになりました。

9.11については、あまり詳しく知らなかったので昨日の夜、少し勉強しました。

メモリアルの中には、9.11の被害者の方の写真や、その遺品などがたくさんありました。

ワールドトレードセンターは世界中の人々が働き、またその周りはダウNTOWNになっていて、多くの人が集まる場所でした。

メアリーさんは、"9.11が起こった時、あなたたちはまだ子供だったけど、私は大人だったから9.11は昨日のように感じる"とおっしゃっていました。

被害者の方の写真は、結婚式の写真や、旅行の写真、家族との写真など写真に写っている人は、どの人も笑顔で幸せそうな顔をしていました。写真の中の笑顔の人は全員、あの日に亡くなってしまったのかと思うととても悲しくなりました。

インターネットでただ調べるのと、実際に訪れて自分の目で見るのでは感じるものが全く違うなと思いました。

アメリカを訪れる際は、9.11メモリアルに行くことをおすすめします。



9.11.メモリアル

[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

※更新が遅くなりました(>_<)

ナガサキユース全員が揃うのも今日で最後でした。

この1週間はとても長く感じました。ニューヨークに2週間以上いるような気がします。

こっちのお寿司はカリフォルニアロールが主流ですが、ご飯は少し乾燥してます。中身のお魚も長崎のほうが美味しいです。長崎に帰ったら1番にお寿司が食べたいなと思っています。

今日はパグウォッシュ会議に携わる学生、ノルウェーの学生、そして以前から企画していたディスカッションがありました。

他のユースメンバーがパグウォッシュ、ノルウェーについて触れているので、私はドイツの学生とのディスカッションのことについて書きます。

ドイツは、日本と共通している点がいくつかあります。その中でも、私たちは二つのことに注目しました。一つは原発。もう一つは核の傘に依存しているということです。

はじめに、私たちから日本の核政策、福島の実況についてのプレゼンテーションをしました。その後ドイツの学生から、プレゼンテーションをしてもらいました。

プレゼンテーションの後、グループに分かれてディスカッションをしました。ドイツの学生からは、日本のエネルギーの発電方法の割合を質問のされたり、ドイツでは福島原発の後に原発反対への市民運動が活発になったことを教えてもらいました。

ドイツ学生のプレゼンテーションの中でドイツの発電方法の割合がありました。その中で私が気になったのは再生可能エネルギーの割合です。日本の再生可能エネルギーの割合はたった1%なのに対して、ドイツでは20%の割合を占めていました。

ドイツでは、再生可能エネルギーを家庭で使うと税金が低くなるそうです。また、できるだけエネルギーを使わないようにするために、窓を二重にしたり、家にソーラーパネルを付けたりするのに政府から補助金が出たりするそうです。

原発をはじめとするエネルギーに関する議論ばかりになってしまい、時間が足りず核の傘についての議論があまりできなかったことが心残りです。

今日で帰国してしまうメンバーもいますが、私は来週もいるので様々な人と出会い、たくさん経験ができればいいなと思います。

Go back to top

No.5 Thursday,1 May

本会議4日目です。

今日は朝からオランダの政府代表者、
ICRCの方と会ってお話する機会がありました。
私の英語力、勉強不足のため
全てを理解するのは難しかったですが、
オランダの方とお話のときは
質問もできたのでよかったです。
私の質問は1回では伝わりませんでした
一緒にいた海外のユースが
助けてくれたので、ホッとしました。

夜は、ニューヨーク在住のばってん会の皆さんが、
“おもてなし”してくださいました。
サーモンが美味しかったです。
初めて会うのに、皆さんとても親切に
してくれてとても嬉しかったです♡



ばってん会の方々と夕食会

[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 30 April

本会議3日目です。

ニューヨークの天気は雨です。
雨の中、国連まで歩いて行きました。ニューヨークの道は水たまりが多くて、国連に着くころには靴の中がべちょべちょになってしまいました(´Д`)

今日は、被爆者ストーリーの活動に同行しました。これは、被爆者の方々が、ニューヨークの学校で被爆体験を語るという活動です。
High school of fashion industry という高校に行きました。ファッションを学ぶ学生が集まり、日本の専門学校のようなかんじでした。セキュリティが日本よりも厳重で、アメリカの方が日本よりも治安が悪いのかと改めて思いました。
アメリカの学生は、日本人よりもリアクションが大きくてびっくりしました。

“戦争が終わるまでは、日本は勝つ、天皇が1番偉いと教え込まれて育ったが、戦争が終わってからはどのように育ったか？”
など面白い質問も出ました。



Fashion Industry 高校にて

[Go back to top](#)

No.3 Tuesday, 29 April

本会議2日目です。

今日は本会議でNGOを含む市民社会が発言できる唯一の場である、Civil society presentationがありました。ここでは、長崎市の田上市長をはじめ、ユースも発言しました。

ユースの枠では、私たちと同じくらいの年齢のコスタリカ出身の女の子、アレックスが発言しました。

この二週間の会議で唯一の場ですが、いつもの政府代表者どおしの本会議のときよりも、明らかに政府代表者の数が少なかったことに、がっかりしました。

NGOのセッションは、平和首長会議に参加しました。ここでは、10分間のプレゼンテーションの場をいただきました。内容は、ナガサキユース代表団の紹介、長崎の現状、今後の活動などです。プレゼンテーションは英語で行いました。前日も夜中の3時半まで起

きて、何度も何度も練習して臨みました。本番では、とても緊張しましたが最後まで無事に終わらせることができました。

夜は、キャサリンさんのお宅でレセプションがありました。キャサリンさんは、長崎で春休みに行われた集中講義で講師としてお世話になった方です。とても可愛いおうちでここに住みたいと思いました。

レセプションには被爆者の方々をはじめたくさんの方が参加されていました。レセプションでは、たくさんの方との出会え、話すことができるので、参加してよかったなと思いました。

Go back to top

No.2 Sunday, 28 April

会議1日目スタートしました！

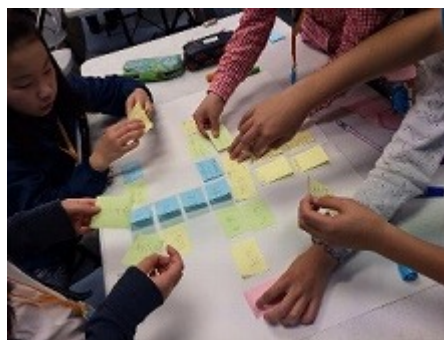
先日、長崎にいらっしゃってた

モレイ大使が今回の会議の議長を務めています。

今日は、平和の授業をするために、ニューヨークの日本人学校に行きました。今回の授業は、教育学部の子が中心になって進めてきたものです。子供たちは、フランス、オランダ、オーストラリアなどいくつかの国に住んだことがある子も数人いました。”平和”とは？という質問に対して、共存や、人種差別をしないなど、日本の小学生と違う意見も出ていました。育つ環境で、出てくる意見も違うんだなと感じました。

夜の日本政府のレセプションでは、日本政府の方だけではなく、各国の外交官やNGOの人々とお話をし、新たなつながりができました。今後の活動で、このつながりを有効活用できたらいいなと思います。

明日は、NGO ルームで行われる平和首長会議のイベントで、プレゼンがあります。ドキドキですが頑張ります。



ニューヨーク育英学園での授業風景

Go back to top

No.1 Sunday, 27 April

いよいよ本格的に活動が始まります。

今日は、積極的に核問題に関わっている海外の若い人とピクニックに行きました。

去年出会った人も、また新たに、こんにちはの人にも出会えて良かったです。

NY滞在中は、彼らと行動することが多くなると思います。彼らの情熱を肌で感じる事ができることに、ワクワクしています。



準備委員会開催前のユースミーティング

Go back to top

No.0 Tuesday, 24 April

いよいよ日本を出発します。

私は昨年に引き続き
今回は2回目の参加になります。

前回は勉強不足で内容の理解が
難しい場面もありました。

そのため、この1年を通して
様々な視点から核問題について
学び理解を深めてきました。
今回の会議では、
これまで学んだことを生かして
さらに新しい発見が
あればいいなと思います。

国際会議のために海外に
行くということは、
めったにない機会であり
そのチャンスを私が
経験できることはとても
光栄なことだと思います。
たくさんの物を見て、
たくさんのことを感じて
長崎に帰ってきます。

それでは、いってまいります(^-^)/



成田国際空港にて

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/marikos-blog

Mariko's Blog ~NPT日記~

No.10 Saturday, 10 May

ナガサキ・ユース代表団のメンバーとしてのニューヨークでの活動も終わり無事に長崎に帰ってきました。

ニューヨークでの活動はとても素晴らしい経験でした。話は変わりますが、中学のときに、市が主催する少年の夢発表会で“世界の平和のために働きたい”ということについてスピーチをしました。今回、このような形で、ナガサキ・ユース代表団のメンバーとして平和のためにニューヨーク活動できてきたことは本当に幸せでした。核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)をはじめ、RECNA、県人会、ユースのメンバーなどたくさんの人たちに支えられ活動することができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

また、私たちのブログを見てくださった方、いいねを押してくださった方、本当に支えになりました。ありがとうございました。

5月20日18:30から長崎大学で活動報告会もありますので、お時間がある方は是非お越しください。



[Go back to top](#)

No.9 Wednesday, 7 May

NPT会議に参加するのも今日で最終日でした。しかし、今日の会議は午前中会議がなく、午後からも15分ほどで終わり、何か物足りなさを感じました。

昨日の午後から今日の午前中までは、議長が来年のNPT再検討会議のための勧告案を作成するために行われませんでした。私は会議が行われないこともあるということに驚きました。会議はただずっと行われるだけでなく、議論の進み具合によっては議長が会議をいったん終了し、各国政府と国議長が話し合いを行なうそうです。

今回は、来年のNPT再検討会議の議長がまだ、決まっていないそうです。毎年、来年の議長は会議が始まる前には候補が上がり、会議の最初あたりで発表されるそうです。来

年の議長がいてこそ、来年何をどの順番で議論するのか決めないと、来年の議論は作られた会議を進行していかなければいけないことになります。

午後のセッションで議長からの勧告案が出ました。これは、各国政府に1部ずつ配られました。内容はまだ読んでないので分からないのですが、気になる方はRECNAのNPTブログをご覧くださいと思います。

今回、ナガサキ・ユース代表団のメンバーとして、NPT会議に参加でき、本当によかったです。たくさん学び、経験できました。

Go back to top

No.8 Tuesday, 6 May

NGOセッションにも参加しました。カナダのパグウォッシュ主催、北極非核兵器地帯構想(Arctic nuclear weapons free zone)について行われました。

現在、世界には5つの非核兵器地帯と1つの非核兵器地位があります。

パグウォッシュ会議のカナダ支部がこの北極非核兵器地帯を作ることを提案しました。しかし、核兵器国のアメリカ、ロシアも含まれ、さらに、NATOの国であるノルウェーやデンマークも含まれます。NATOは核の同盟であり、核兵器を保有してない国でもNATOの国は核の傘の下にあると言えます。アメリカではNATOの役割(集団防衛や核の同盟)について重視されているがカナダはそうでもない。核兵器国が、非核地帯となれば核軍縮もスピードアップするかもしれないが、この北極非核兵器地帯構想はなかなか難しいと思います。実際の核兵器国がこの非核兵器地帯に組み込まれているし、NATOの役割も関わってきます。

日本にも非核兵器地帯の構想がありますが(北東アジア非核兵器地帯)、まだ実現していません。他にも、中東非核兵器地帯・中東非大量破壊兵器地帯構想があります。このように、核軍縮のために地域ごとに核兵器をなくしていく努力が行われていますが、現状では進んでいません。この非核兵器地帯が増えると核兵器禁止条約成立も近いと思います。

Go back to top

No.7 Wednesday, 5 May

NPT会議も2週目に入りました。予定では今週から2015年の準備のための会議が行われる予定でしたが、先週の金曜日に予定されていたクラスター3について行われました。クラスター3は

核の平和利用について議論されます。

日本は、核の平和利用については推進していくようです。私は、原発事故が起きたから原子力発電から別のエネルギーに転換した方がいいのではないかと考えるが、一筋縄ではいかない問題があります。日本が原発の技術を持っていることは誇れることであり、原発の技術を売ることもできます。エネルギー問題だけでなく、経済にも関わってくる問題であるので、核の平和利用のことについても複雑だなと思います。

Go back to top

No.6 Friday, 2 May

ユースみんなでニューヨークで活動するのは最後でした。ヤング・スチューデント・パグウォッシュの人と交流、ノルウェーのICNAの人たちとの交流、ドイツ学生とのディスカッションなど、たくさんの若い人たちとの交流を行いました。

ドイツ学生とは福島第一原子力発電所事故のことを主に話し合いました。世界中の人たちに注目されていることだということをNPT会議に参加して感じました。NPT会議で最初に各国の考えを述べるステートメントでも福島について述べられ、NGOのサイドイベントでも福島のことを取り入れたテーマがあるなどいろんなところで、福島のことを取り上げられています。ドイツ学生とのディスカッションでは3グループに分かれて話し合いましたが、私たちのグループでは福島のことが主なトピックでした。福島のことにについて少し勉強していましたが、実際に体験したり、ボランティアとして行ったりした人たちとはリアルなことを話せていました。

核兵器と原子力発電。ウランやプルトニウムといった材料になるものは同じだが、何に使うかが違う。原子力発電に反対するのかしないのかとても難しい議論だと思います。

Go back to top

No.5 Thursday,1 May

アメリカの核兵器の近代化についてのサイドイベントに参加しました。アメリカは軍事費が1985年から増え続けていて、おそらく最終的には3500億ドルまで増えるのではないかとされています。

アメリカでは、核兵器に対してお金が必要だと申請すれば、すぐにお金を用意してもらえるそうです。そのほかの国の政策についてお金の申請をすると5年くらいは待たされるそうです。

このように、アメリカは核兵器に対する意識が高く、何よりも大事なものとして扱われているようです。国の税金から軍事費、そして核兵器への費用が使われるよりも、もっと国民、人のために税金を使うべきだと思います。国民も自分たちが出した税金が何に使われているのか把握するのも自分たちのためだと思います。核兵器については非人道的な兵器というだけではなく、経済的な面からもアプローチできます。いろんな角度からアプローチできるのでこれからも、様々な考え方を学べたらいいと思います。

夜は長崎県人会ばってん会の方との夕食会でした。長崎平和特派員第1号の田中有美さんをはじめ、ニューヨークで活躍されている方とお話して、長崎のよさを改めて教えていただきました。ニューヨークでも、ユーストリーム配信された長崎の平和祈念式典を見るイベントや歌手の原田真二さんをお招きしてのイベントなどこの他にもたくさんの平和活動が行われているそうです。遠く離れても、故郷を思う気持ちは変わらず、遠く離れた海外だからこそお互い助け合って長崎のためにいろいろ活動されていて、とても刺激になりました。長崎での活動もぜひニューヨークのばってん会の方とコラボしたり、協力したりして、今後も交流が続いていけばなと、思います。

私事ですが、5月1日誕生日でした。ナガサキ・ユース代表団としての活動中であり、ばってん会の方との夕食会もあり、そして、ニューヨークにいる時に誕生日を迎えられて本当に幸せです。ユースメンバーにも夜のミーティングの時に祝いしていただきました。すてきな誕生日をありがとうございます。



[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 30 April

会議には政府関係者以外に核問題に取り組んでいる専門家や若者、NGOの人、日本からは広島の高校生や被爆者の方、NGOの方など多くの方が参加されています。だからこそ、たくさんの方とお話し、コミュニケーションを取り、ネットワークを広げなければいけません。

しかし、恥ずかしさがあり、なかなか積極的にお話をできず、田上市長からアドバイスをいただきました。

“積極的に話しかけた方がいい”

“やらない方がもったいない、失敗したと思っても後から考えてみるとそれは失敗じゃない”

“ここでは、急な予定変更は当たり前。急なチャンスをつかむ。準備をしてないからこそ結果、200%、300%の結果を出せる”

このようなことをアドバイスしてくださいました。田上市長ありがとうございます。

海外では、誰もが自己主張が強く自分の意見をはっきりと持ち、発言されます。自分に足りないことが目に見えて分かります。NPTの会議に参加して、核問題について学ぶだけでなく、自分を成長させてくれるのがこのユース代表団だと思います。

田上市長からアドバイスを頂いた後、2015年の目標をいろんな人に聞くビデオ撮影のプロジェクトで、被団協の方、そして、金曜日に一緒にイベント(ディスカッション)を行うドイツ学生にインタビューを行いました。最初に声をかけるのは緊張しますが、話始めると最初の緊張はなんだったのだろうと思うほど話してよかったと思います。

核問題について、たくさん学ぶだけでなく、人として成長するこの機会に、積極的に話しかけることをこれからも続けていきたいと思っています。



[Go back to top](#)

No.3 Tuesday, 29 April

私はニューヨークに来て初めて広島の被爆者の方の話を聞きました。被爆体験を聞きながら考えたことは、苦しみは同じだけど、長崎・広島で体験したことは人それぞれ違うんだな、と思いました。1人の方の被爆体験を聞くとその人だけの被爆体験から想像するが、2人、3人...と聞けば聞くほど自分が想像する核兵器の恐ろしさは明確になっていくのではないかと思います。私は核問題に取り組んでいるにもかかわらず広島のことについてはほとんど学んでいません。ニューヨークに来て、長崎と広島の繋がりをもっと深めていけたらいいなと思いました。

本会議でのNGOプレゼンテーションでは、市民社会の声を政府代表の方に伝えるためのものですが、空席が多く驚き、残念だと思いました。

このプレゼンテーションで印象に残ったことは、早く核兵器禁止条約の法的枠組みを作らなければならないということです。最近、核兵器の非人道性に焦点が当てられ、核兵器の悲惨さが多く叫ばれるようになり、多くの人が核兵器は非人道的な兵器だと認識してきました。

だからこそ、法的枠組みを作る段階まであと少しであるのに現状が動かないと、おそらく多くの市民社会の方たちが感じているのではないかと思います。

プレゼンテーションの中では、“具体的に法的枠組みを作る準備がまだできていない”という指摘、“今は核兵器禁止条約を作るのは難しいかもしれないがスタートしたら難しくないと”といった前向きな発言がありました。

世界の議員グループの方からの発言では、“議員が核兵器への予算を減らすことも増やすこともできる”、“議員は市民社会と政府の橋渡し”ということをお話され、議員からの核問題への取り組み方やできることを知り、政策を変えたいのであれば、議員の方に提案するのも1つの手だと思いました。

NGOプレゼンテーションを傍聴し、被爆者、長崎市長をはじめ、ユース代表や、国際弁護士、議員など様々な立場の方がこの核問題を考え取り組まれていることを知り大きな収穫になりました。



[Go back to top](#)

No.2 Monday, 28 April

会議をが始まり、初めての国連本部に入り、会議を傍聴しました。

午後からはニューヨーク育英学園で授業を行いました。”平和”と”平和を案内すること”について子どもたちに考えてもらいました。子どもたちは私たちが考えている以上にしっかりしていて驚きました。アメリカに住んでいるからかもしれませんが、平和という単語で共存という単語が出たり、平和を案内するために、みんなのために一生懸命働くという答えが出たりしました。アメリカにはたくさんの国の人が住んでおり、人種もさまざま、だからこそ共存という言葉が出るんだと思いました。自由ということを達成するためには、一生懸命に働くという答えが出たので発想の転換に驚きました。

私は教育が専門ではないにもかかわらず、関わらせていただきとてもいい経験になりました。子どもたちの反応を見ながら話を進めたり、グループワークのときにどうやって子どもたちの考えを引き出すのか、子どもたちが悩んでいる時にどんなアドバイスをしたらいいのかなど分からないことばかりでした。

いろいろ反省点ありますが、これを長崎に帰ってから平和教育をやりたいというRECNAサポーターに共有できたらと思います。

夜は日本政府主催のレセプションが行われました。たくさんの方とお話できる機会をいただきました。この繋がりが小さな繋がりでも、何らかの形で大きな繋がりにもなります。会えるという出合いを大切にしていきたいと思います。

[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 27 April

ブログを書き始めます。

ユースメンバーそれぞれ、経験したこと、学んだこと、感じたことはそれぞれなので、私なりにブログを書いていきたいと思います。

今日は、キャサリンとのミーティングやNPTに参加するBANgの方たちとの交流がありました。私はこれまで長崎で核問題について活動してきて、日本で核問題に取り組んでる人達や海外で活動はしているユースの人達などがいるということをよく聞いたり、ネットなどで見たりしていたのですが、実際に活動されている方にたくさん会うのは初めてなので、核問題に取り組んでる方がたくさんいらっしゃる事が一番印象に残りました。

長崎では、“核問題について興味がある大学生が多いが、行動に移してない人が多い”というデータがあります。長崎に住んでいるからこそ、大学生で核問題に取り組んでる人がもっといてもいいのではないかと思います。ニューヨークにはアメリカや日本だけでなく、なぜこの国の人が核問題に取り組んでいるんだろうと思う国出身の人もいます。それぞれ興味も問題意識も違いますが核問題に取り組んでいます。長崎の学生にもこのことを知ってほしいと思いました。

私もRECNAで活動する前は核問題は怖い、難しいと思っていました。しかし、実際に活動してみるとただ、怖い、難しいと思うより、学び、考え前に進んで行かなければいけないのだと思いました。

これから、たくさんの方とお話して、考え方も違う方もいらっしやると思いますが、たくさんの方の考え方を聞き、学んでいきたいと思ひます。

明日から会議が始まります。目の前で国際会議を見れることは本当にすばらしい機会だと思います。この機会を頂いたことに感謝します。

午後はニューヨーク育英学校での授業があります。新崎さんが教育学部なので授業を行い、私は授業をサポート係として参加します。授業は去年のナガサキ・ユースメンバーの下田杏奈さん、ピースバトン・ナガサキの調仁美さん、そして、教育学部の全先生などにご協力していただき授業内容を深めていきました。

お忙しい中、協力していただき本当にありがとうございます。私は新崎さんのサポート係なので、子どもたちに授業で伝えたいことが伝わるようお手伝いができればと思います。

[Go back to top](#)

No.0 Tuesday, 24 April

私は、長崎大学経済学部4年の堀真理子です。

私はこれまで、RECNAサポーターとして活動してきました。昨年、ナガサキ・ユースの1期生の活動を日本で支えてきました。1期生の活動を見てきて、帰国後、イベント企画のリーダーシップを取ってくれたり、ユースのネットワークを通じて私たちRECNAサポーターに大きく影響を与えてくれました。今回は、私がナガサキ・ユース代表団2期生としてニューヨークで活動し、学んだことや感じたことを長崎の学生に共有し、そこでできたネットワークを通じて、これからの活動の幅を広げていけたらと思います。

たくさんの方に支えられ、今回ナガサキ・ユース代表団のメンバーとして2014年NPT再検討会議第3回準備委員会に参加できることを心から感謝しています。この想いを忘れず精一杯頑張ってきます。

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

 recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/harukas-blog

Haruka's Blog ~NPT PrepCom 2014~

No.8 Friday, 9 May

先ず、最後の日の本会議のことを書いていなかったのも少し。

7日は本会議が3時からということで、間に合うように会議場に入ったのですが、なんと15分足らずで会議が終わってしまいました。議長が文書を提出して終了でした。あまりに短くて驚きしかありませんでした。

そうしてNY最後の日を迎え、日本に帰ってきたわけですが、この2週間、本当にあっという間でした。沢山の素敵なオトナや同世代の人々に出会いました。まだまだわからないことが沢山あるし、出来ないこともありますが、この出会いだけでも自分の財産だといえます。

ここに送り出してくださった人々、支えてくださった全ての人に感謝しています。本当にありがとうございました！

今日から報告会に向けて頑張っていきます！皆さんぜひお越しください！お楽しみに！

[Go back to top](#)

No.7 Monday-Tuesday, 5-6 May

早くも会議が2週目に入りました。

今日は9.11メモリアルとマウントサイナイ大学病院を訪問したことを書きたいと思います。

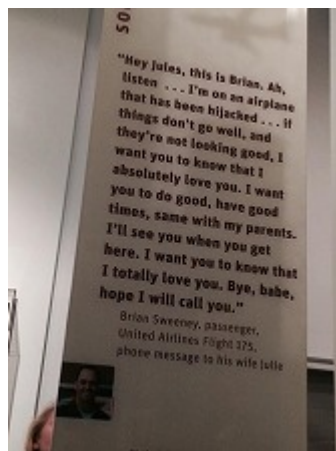
9.11のことは私はテレビを通して見た出来事だったので、どこか自分から遠いこととして考えていたんだと思います。今回、NYに実際に来てその現場へ訪れることができて本当に良かったと思いました。

1番驚いたのは写真の多さです。9.11で大切な人を失った人々が、その大切な人の幸せそうな笑顔の写真を集めて展示されているところがありました。それらを見たとき、涙が止まりませんでした。急に9.11を身近に感じました。

そして、マウントサイナイ大学病院へ訪問した際、福島の被災者の方々と9.11のご遺族の方々との交流があったとお聞きしました。どういう方向に交流会が進んで行くのか不安だったそうですが、思っていた以上に成果があったそうです。

形こそ違いますが、お互いが、何もしていないのに突然大切な人を奪われた悲しみ、やるせなさ、絶望を分かり合える存在となれたようだ。もちろん全てがいい結果とはなかったが、『どうやって乗り越えていくのか』などを話していたそうです。

理不尽に幸せを奪われた人は本当に沢山いるということ、そんな人を増やさないために自分にできることがあるかもしれないということを改めて感じました。



[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

* 遅くなりました...

会議5日目、前半の最終日です。
今日も沢山の人々との出会いがありました。

パグウォッシュ会議に携わっている方とそれについて学んでいる学生たち、国連で働いている方、NGOのひとつでノルウェーのICANの若い人たちに、ドイツの学生たち...

パグウォッシュ会議は年に1度あるそうなのですが、2015年は長崎の硫黄島で開催されるそうです。この会議は正式には、科学と世界問題に関する会議といいます。冷戦が極点に達しているときに水素爆弾が出現し、核戦争の危機が間近に迫っていることを憂慮した、ラッセル、アインシュタイン、湯川秀樹ら11名の科学者が、〈人類が直面する悲劇的な情勢〉を克服するため、国家やイデオロギーを超えて〈ヒトという種の一員として〉集まり、〈世界の諸政府に、彼らの目的が世界戦争によっては達成されないことを自覚し、このことを公然とみとめるよう勧告する〉決議を出すよう訴えたものです。

多くの学生たちもその会議に同行し学びながら、何か企画も考えているようです。長崎の学生と何かできるかもしれないと話していました。

ノルウェーの人たちとは、ランチをしながら日本とノルウェーのいかに核兵器廃絶に向けて市民が動いているかについて話しました。その中で、日本は東日本大震災を受けて原発についても除去の方向を考える人が増えているという話をすると、私たちはNPT(主な柱は核軍縮、不拡散、原子力の平和利用)はとてもいい条約だと思っていて、原発と核兵器は別だと考えている。とにかく核兵器廃絶に向かって行動していると言っていました。私は原発の利点も分かっていますが、やはり震災後の様子を見ると、何かが起こった時にはコントロールが出来ないもの、放射線の恐怖に関しては核兵器も原発も一緒なのではないかと思っていたので、やっぱり考えは人それぞれなんだと感じました。面白い議論が出来たねと言ってくれました。

ドイツ学生とは、ユースが以前から企画していたディスカッションをしました。日本側からは原発についての、ドイツ側からは原発と核の傘についてのプレゼンを行いそれらについて3つのグループに分かれて議論し合うという企画です。

ドイツは東日本大震災のことを受けて原発政策を完全に辞める方向に動いています。それは国民の力が大きかったと聞いていました。

ドイツの学生からは
震災の際、十分な情報提供は成されたのか。
日本政府が原発を再稼働しようとしていることに対して、国民はどう思っているのか。
東電を今でも信用できるか。
核の傘のもとにいることと、被爆国であることで政策に矛盾を感じるか。
中国に対する感想は。
など様々なことを聞かれました。

逆にこちらからは原発をなくして、新たに問題がないか。
近くに核保有国があることについてどう思うか。
などを質問しました。

原発をなくす政策をとったが、風力や太陽光発電は気候によって電気の供給量が違うし、それらの装置はとても高価で、それが今後の課題だと言っていました。

ドイツは日本と周囲の状況が似ています。このように率直に議論を交わして打開策のヒントを見つけられたらと思いました。

Go back to top

No.5 Thursday, 1 May

会議4日目。NGOや私たちが本会議を傍聴する席はいつも人が多いのですが、政府関係者たちが座っている席は空席が目立ちます。これを見るだけでも、各国のNPTへの関心の度合いがわかります。関心の高い低いにかかわらず、国際会議の場には条約に批准している国は来るべきだと思うのですが...

今日は、オランダの政府関係者、ICRC（赤十字）、NGOのひとつであるICANの人にあってお話することができました。

オランダはNuclear Sharingという政策をとっています。これは「核兵器の共有」という北大西洋条約機構（NATO）の核抑止における政策上の概念です。一方でNPDI

（核兵器の廃絶に向けて、核兵器や核保有国を増やさない取り組みを着実に進めるために、核保有国と非保有国の橋渡し役を担う、地域横断的な有志国の集まり。）にも入っています。よってこの国は、核の傘のもとにありながら核廃絶を目指している、日本と酷似している状況だといえます。日本もアメリカの核の傘のもとにありながらNPDIに入っています。

4月30日の General Debate ではNPDIがいかに重要かということと、IAEA（国際原子力機関）の追加議定書などについて述べていました。

実際にあってからのお話は、核兵器の非人道性から、軍縮と不拡散を進めなければならないということでした。全ては聞けませんでした。日本と同じステップバイステップの考えを持っている印象も受けました。ただ、様々な国やNGOが協力して核廃絶を進めなければならないと言っていました。

今年12月には核の非人道性についての会議がオーストリアのウィーンで行われます。今後オランダがどう動いていくのか興味が湧きました。



[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 30 April

会議3日目、国連の空気にもだいぶ慣れてきました。

今日はNGOのひとつ、Hibakusha Storiesの企画で、NYの高校、High School of Fashion Industriesに訪問し、被爆者の方が被曝講話をしている様子を見学させていただきました。とても歓迎してくれ、被爆者の方のお話もとても真剣に聞いていました。質疑応答では時間内に終わらないくらいたくさんの質問が出ました。

アメリカを憎んでいるか。

被曝を経験した当時、人生の中でアメリカに自分が行くと思ったことがあったか。

原爆投下後、日本の歴史教育はどのようになっていったか。

被爆者の方は、アメリカ人を憎んでいるわけではないが、アメリカが核保有国である限り許すことはできない。戦後の日本はとても貧しかったので、まさか自分が今こうしてアメリカの子供達に自分の体験を聞かせるとは思っていなかった。などと話していらっしゃいました。

このような活動も大事な継承のひとつ。とても真剣だった学生たちの姿を見て、私もNYにいる間より一層頑張ろうと思いました。



[Go back to top](#)

No.3 Tuesday,29 April

会議2日目、NGOのセッションのひとつ、平和首長会議に出席しました。そこでは、広島の高校生たちと、長崎市ユース代表団の2人がプレゼンテーションを行いました。被爆者の方々の高齢化とともに、被爆の記憶の継承が問題となっている現在、私たち若い世代の行動が本当に注目されていると改めて感じました。高校生もユースの2人も立派に英語でのプレゼンテーションをやり遂げました。

午後には、エルサルバドル政府、NGOであるHibakusha Stories, Peace BoatによるThe Humanitarian Voice in the Global Movement to Abolish Nuclear Weapons というセッションが行われました。私とみなみがこの場で10分間のスピーチの時間をいただき、若い世代の「継承」について話すことができました。

このセッションの中で、軍縮教育家のキャサリン・サリバンが、現在世界に存在する核弾頭の数を同じ数のBB弾を金属の板に落とす音で、その多さを表現するデモンストレーションを行いました。これは、以前私たちも教わったやり方で、去年の8月10日、11月3日のイベントにも使用したものでした。やり終わった後に彼女が良かったです。

「だから私たちは今ここにいるのです」

19,700発もの核弾頭がある世界、これを変えていけると信じているからこそ、ここに
いる皆さんは集まっているのです、と。

核問題に関わるようになっていろんな人々に出会いましたが、今までそんな人たちと関
わってきた時間が、かけがえないものに感じました。

この問題は複雑で難しく、終わりが見えません。それでも、これだけ一緒に立ち向かっ
ていこうとする仲間がいるということが、国際会議の本場にきて圧倒されていた自分の
背中を押してくれた気がしました。



[Go back to top](#)

No.2 Monday, 28 April

会議1日目、朝8時前から入場パスをとるため国連の前に多くの人が集まりました。去年
ジュネーブで会った面々が1年ぶりの再会を喜び合いながら、今期の会議のことについて
軽い議論が行われていました。これから、こんな中で活動すると思うと、期待と不安で
いっぱいになりました。

議長であるロマン・モレイ大使(ペルー)の進行の下、会議が始まりました。

午前中、気になったStatementを発表していた国が3つ。

インドネシア、マーシャル諸島共和国、コスタリカです。

特に、マーシャル諸島共和国は今月、国際司法裁判所に核兵器を保有または保有の疑惑

がある米国やロシアなど9カ国に対して、NPTなどに基づいて早期に誠実な核軍縮交渉に取り組むよう求める訴状を提出しました。

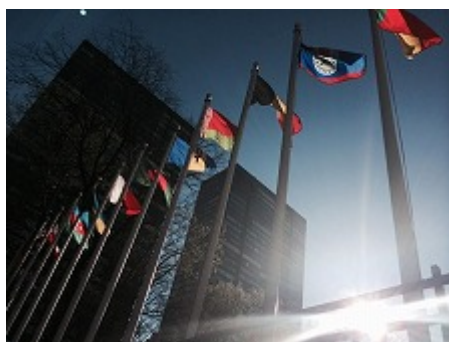
このこともあって、マーシャル諸島共和国の発表後、拍手があったほど注目されていたようでした。

今日の夜、日本政府主催のレセプションが行われたのですが、その前に吉川大使とお話する機会をいただきました。その際に、マーシャル諸島が9ヶ国を訴えたことについてどう考えるか、9ヶ国はどう動くと思うかお聞きしました。

「これは、非常に新しい動きでもあり今後重要になってくることだと思う。イギリス、インド、パキスタンでは裁判に発展する可能性はあるが、他の国ではどうなるか分からない。NPTに批准していない国、イスラエルや北朝鮮に対してはNPTにおける交渉も必要だ。」とのこと。

確かに、これはとても新しい革新的な動きであると私も思います。是非、マーシャル諸島の政府関係者にお話が聞ければと思っています。

会議はまだまだ始まったばかり。他の気になった国とその関連国はもちろん、明日以降の本会議にも注目していきます。



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 27 April

私たちの滞在しているホテルにも続々と去年ジュネーブのPrepComで会った顔ぶれが集まってきていました。会議開始前日、それぞれの団体や人々が、それぞれの目的に向かって動き出します。

私たちも朝から明日から始まる会議に向けたMTGを私たちの事前勉強会にも尽力してくださった軍縮教育家のキャサリン・サリバンさんを交えて行いました。NGOのひとつ、Hibakusha Storiesのメンバーにもお会いできました。

午後は、NGOのひとつであるBANgのゴードイナー、クリスチャンの呼びかけで、BANgのメンバー数人と会うことができました。一人ひとりが核問題に対してしっかりした意見を持っていて、そうしながらも他人の意見を理解しようとしてくれる素敵な人たちでした。会議が始まる前に話すことができ、よりいっそうこれからのことに期待が高まりました。

また、彼らは各国の政府関係者と若者の議論の場を作ろうと尽力してくれています。そんなアクティブな人たちのなかで、私も好奇心に忠実に、積極的に行動していこうと思います。

いよいよ明日からNPT再検討会議第3回準備委員会が始まります。

何が起こるのか、何がどう動くのか、今の私には分かりませんが、全てのことに於いて最善をつくすことを忘れずに臨みます。



[Go back to top](#)

No.0 Tuesday, 22 April

ナガサキ・ユース代表団2期生、長崎大学経済学部4年の前川陽香です。

今からNY行きの飛行機に乗ります。

NPT再検討会議準備委員会の場に行くのは2回目になります。ユース2期生の選考から今までが、今思い返してみると長いようで短かったと感じています。

この期間は、PCU-NCの方たちをはじめとする多くの人々の支えとともに準備を進めてきました。NPTやそれに関わる国々のこと、長崎と広島の被爆の記憶、世界における日本の立場、専門分野からみた核問題など、多くのことを学ぶことができました。

今回の目標は、とにかくいろいろな人と話して自分の視野をより広げること、世界の若い世代とのネットワークをより広く、より強い繋がりをつくることです。

私がRECNAと関わって約3年、様々な素敵な出会いや貴重な経験をさせていただきました。これまで関わった全ての人に感謝してNYでの時を有意義なものにできるよう、精一杯楽しんで頑張ってきます。

毎日の議事録も、出来るだけ現場の空気が伝わるように工夫するつもりなので、楽しみにしてください。

行ってきます^^

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

 recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/minamis-blog

Minami's Blog ~挑戦~

No.7 Monday, 5 May

先ほど日本に到着しました。ニューヨークからサンフランシスコを経由しての長旅はドタバタでしたが、無事に到着できたことにほっとしています。日本での最初の食事はとろろそば！今とろろそばの味に感激しているところです。

今回ユース代表团として日本で、そしてニューヨークでたくさん学ばせて頂いたことに心から感謝しております。皆様本当にありがとうございました。

[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

8時からヤングパグウォッシュの人と面会
10時から本会議傍聴
ランチはノルウェーの学生とのともに
15時半からドイツ学生とディスカッション

ニューヨークの天気は晴れです。

私はニューヨーク時間の明日朝ニューヨークをたちます。

したがって、昨日はニューヨークでの最後の活動日になりました。

朝からパグウォッシュの若い学生との面会に始まり、とても充実した一日になりました。

ほぼ毎日張り付いていた本会議。全く分からず、出てくる単語や発言をした国のことを逐一調べる毎日でした。読みたいステートメントにもまだ全てに目を通せていません。これは日本に帰ってからの宿題です。所々わかっても議論の流れについて行けず、四苦八苦していました。

昨日、エジプトのステートメントを聞いていたら、自然と一部ですが理解しながら聞くことができとてもおどろきました。

エジプトは2013年NPT再検討会議第二回準備委員会を途中でボイコットしている国です。エジプトの発言はすごくストレートに述べられていると感じました。

“2000年の13の実用的なステップに代表される核軍縮を前進させる厳しい約束は未だに少しも履行されていない。もしNPTが、条約の三本柱のバランスを必要とし、核軍縮のビジョンを抱き続けるなら、核兵器国は方向をかえるときがきた。”

そして、中東の問題についても触れていました。核兵器国にはっきりと批判をしたり、自分の意思をはっきりと言えるのは核の傘の元になく、また非核兵器地帯の実現を強く願っている国ならではだとおもいました。

昨年のエジプトのボイコットの内容についてはRECNAのリンクをつけておきます。
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/nptblog/npt2013/#s5>

Go back to top

No.5 Thursday, 1 May

9時からgovernment briefing オーストリア

10時から本会議場傍聴

15時から本会議場傍聴

19時からばってん会の方と夕食会

今日は、クラスターII

(核不拡散・保障措置、非核兵器地帯に関連する条項の履行問題)に関する議論が展開されました。

注目しているマレーシアやコスタリカをはじめ、日本も発言していました。会議は、なんとも淡々としているという印象です。意見を言い合うというよりは、淡々とステートメントを読んでいるという様子です。二階が政府関係者の席(議場)、三階が傍聴席になっています。傍聴席はクーラーが入っていて少し寒いです。本会議場では、イヤホンをつけて各国の発言を聞きます。英語の他に、フランス語、中国語などが同時通訳で流れています。NGOセッションの際には日本語も聞くことができました。NGOセッションのときのみでしたが。

今日は、昨日拍手がおきたOPANALのステートメントに注目しました。

【50年前程、ラテンアメリカ、カリブ地域の国々はトラテロルコ条約の策定をはじめた。その国々の中には冷戦地域の国も含まれていた。トラテロルコ条約の実現には、決して追い風が吹いていたわけではない。(多くの国々は彼らの戦略的な合意に貢献しなかった)にもかかわらず、条約は結論づけられた。20ミリオンスクエアキロメートルを超える領域と600ミリオンの人々が核兵器から守られた。そして、OPANALの47年の経験と類まれな不拡散の記憶は来年のNPT再検討会議に貢献する準備ができている。】

日本で昨年のNPT第二回準備委員会のステートメントをメンバーと読んでいたときも感じたことですが、ステートメントにはその国もしくは国々のこの条約に対する姿勢(勢い)がはっきりと現れているとおもいます。OPANALなど一刻も早く核軍縮・不拡散を進めたい国には勢いが感じられます。トラテロルコ条約は世界で最初の非核兵器地帯条約です。なぜ非核兵器地帯条約を作ろうと思ったのか、どのような歴史をたどって現在のようになったのか、賛同する国が増えていくような流れはどのようにしてできたのか、とても興味がありました。メリットがあると考えたから、条約に参加することを決めた国が多かったのではないのか、では、そのメリットとはなにか。OPANALだけではなく、各国のステートメントを読みながら探っています。

OPANALと一は“ラテン・アメリカおよびカリブ海地域における核兵器禁止に関する条約機構”にことず。現在33カ国が所属しています。

トラテロルコ条約は正式名称はラテンアメリカ及びカリブにおける核兵器の禁止に関す

る条約 (Treaty for the Prohibition of Nuclear Weapons in Latin America and Caribbean) と言います。ラテンアメリカ核兵器禁止条約とも呼ばれます。1962年のキューバ危機が契機になっています。1967年署名、1968年発効されています。

Go back to top

No.4 Wednesday, 30 April

9時からgovernment breafing アメリカ

10時から本会議傍聴

15時から本会議傍聴

ニューヨークはひどい雨の日が続いています。

今日はほぼ一日本会議を傍聴しました。

午後はクラスター1に関する討議が行われていました。

英語がわからず。単語単語を一生懸命ききとっていました。

いくつかの国の発言の中に“日本”・“広島”・“長崎”・“被爆者”という発言が入っていたことにとてもとても驚きました。

帰宅後、被爆者の話をしていたマレーシアのステートメントを早速読み直しました。内容の一部を書きます。

【69年前の1945年8月6日、広島の大分県立大学で講義を受けていたときに一人の学生が被爆しました。大学は原爆落下中心地から1.5kmのところにありましたが、その生徒は奇跡的に生き残りました。Mr. Abdul Razak Abdul Hamidは唯一のマレーシア人の被爆者でした。日本政府が認識した、1760人の被爆者の中の一人でした。

彼は“今日、私たちは広島に落とされた原子爆弾よりももっと強力な原子爆弾を何千発も持っている、そのことが恐ろしい。

初めて原爆が落とされて、そこから学んだ苦い記憶だけが人々を愛と平和の小道に戻るようみちびいてくれるだろうとおもう。】

私はこの文章を読んだときに、核兵器を保有することは一国の問題だけではないと強く感じました。また、同時に私は、とてもとても怖くなりました。これは世界中の人々に関わる問題です。グローバル化が進んでいる今は、なおさらそう言えるとおもいます。一発の原子爆弾が投下されることで被害を受けるのは被爆国の国籍を持つ人だけではありません。自国の安全を守るために、自国の人々を守るために、核兵器を保有しているという国があります。もしも、テロリストの手に保有している核兵器がわたってしまったら...誤操作で核兵器が投下されてしまったら...その可能性はゼロではありません。この可能性をゼロにすることは可能でしょうか。

非核兵器地帯に属する国々がなぜこれほど必死になって核兵器廃絶に取り組んでいるのか、NGOの人々が寝る間も惜しんでなぜこの問題に関わっているのか、疑問に思うことがありました。もちろんこれが全てではないと思いますが、これが一つの理由ではないかと思います。

爆発してしまったら、自国民の安全どころか他国民の安全まで脅かしてしまいます。自国だとか、他国だとか言ってられません。核兵器国が保有しているものは、それだけ危

険なものであるということ、世界中の政府関係者でなく世界中の全ての人が認識すべきだと思いました。そのうえで、私たちは、どのような選択を選ぶのか考えなくてはならないと思います。

Go back to top

No.3 Tuesday, 29 April

9時から government briefing -メキシコ

10時から本会議 -アメリカ

11時から平和首長会議

13時15分から被爆者ストーリー

今日は、私にとって感情が揺さぶられることが多い一日となりました。刺激を受けっぱなしで今だ興奮冷めやらぬ状態にあります。ここで注目すべきは、刺激を受けたのが海外の発言からだけではないことです。NGOが本会議場で発言をするNGOセッションでは、メモを取る手が止まりませんでした。(日本語の通訳が流れていたから...ということもありますが...)

夕食会での広島原爆被爆者協議会の方との被爆者団体間の問題点、広島被爆者の方のお話、被爆者方のお話とエルサルバドル政府を招いた被爆者ストーリーでの田上市長の発言、NGOセッションでのエジプトやアイルランドの発言...まだまだたくさんありますが、ここでは特に印象に残った発言をあげたいとおもいます。NGOセッション時のフロアからの発言です。

★エジプト

“NGOの懸命な努力に感謝します。しかし、NGOはさらに進展すべきです。

(2つの提案あり。)

NGOは外交官などのコミュニティーの中で外交のコミュニティー、特に

各国の首都の政策立案者と、話すべきだ。

もっと単純な問題、簡略化して普通の人にもわかるようにもっと範囲を進めてはなすべきだ。

今！が大切。NGOの能力を増強すべきだ。”

私にとってこの発言は衝撃的でした。なぜなら、NGOの活動が政府に影響を与えていると感じただけではなく、NGOと政府が補完しあっていることを感じたからです。

長崎では多くの市民の方が本当に一生懸命、そして活発に活動しています。一般の市民の声に政府を動かす力が本当にあるのか、やっても意味があるのかと感じることは私自身よくあります。しかし、実際に市民社会の活動を政府が期待している、むしろ、こんなをもっとして欲しいと要望までおこなっている姿は市民社会の声が届いているという驚きとともにパワーをもらいました。

NGOセッションは市民社会が何年も努力を重ねやっと入れた時間であると聞きました。時間はかかるかもしれない、すべての政府代表に届いたわけでは無いかもしれませんが、市民社会の声は間違いなく一人の政府関係者に届いていました。

とても有意義なことだとおもいます。

No.2 Monday,28 April

いよいよNPT再検討会議第三回準備委員会が始まりました！飛行場のようなセキュリティーチェックを受けてから敷地内に入ったことが印象的でした。憧れの国連では、国連内を歩く全ての人々がきらきら輝いて見えました。様々な人種の人々が、様々な言葉で会話をし、世界がもっと良くなるように働いているのだと思うと、すごく感情が高ぶりました。

今日の午前中は本会議の傍聴、午後はコスタリカのヒオコンダ・ウベダ氏に会う予定でした。しかし、先方の都合により延期になりました。

本会議は、英語についていくことに必死でした。知っている条約の話などは単語単語で大雑把に理解することができ、その国がどのような立場なのかは理解できましたが、ほとんど聞き取ることができませんでした。午後の時間が空いたのでカフェテリアで前川陽香さんと午前の本会議の内容でわからなかったことや疑問に思ったことを中心に調べたり、情報を共有したりしました。ユースメンバーは個人の活動が多く、なかなか情報を共有したり、確認しあったり、意見交換をすることがなかったのでとても有意義な時間でした。

特に興味があったのは、CTBTを2012年2月に批准したCTBT発効要件国であるインドネシア、2010年にモデル核兵器禁止条約を提起したコスタリカ、先日国際司法裁判所に核兵器保有9カ国を提訴したマーシャル諸島です。明日以降、今日の3カ国のステートメントを二人で分担しながら読む予定です。

私はウベダ氏にお会いすることが決まるまで、コスタリカのことをよく知りませんでした。コスタリカはノーマークの国でした。しかし、調べてみると、とても興味深い国であることがわかりました。コスタリカはマレーシアと共に2000年と2005年のNPT再検討会議において、NPT当事国が核兵器禁止条約の早期締結に至る交渉開始に合意するよう提案している国であることがわかりました。また、2007年NPT準備委員会にはモデル核兵器禁止条約(MNWC)をマレーシアとともに作業文書として提出しており、2010年のNPT再検討会議ではモデル核兵器禁止条約を提起していたことがわかりました。本会議が始まると、さっそくコスタリカの政府関係者がステートメントを発表していました。午後の面会がなくなったことはとても残念でしたが、幸運なことに、夜の日本政府のレセプションパーティーで手当たり次第に政府関係者に話しかけていると、コスタリカの政府関係者にお会いすることができ、お話する機会も得ることができました。

私が最も興味があった、“非核兵器地帯のメリットはなにか”“実際に非核兵器地帯の国々はどのようなことを感じているのか”、また、“もし日本が非核兵器地帯に入ればどのようなメリットがあると思うか”などをお尋ねしました。もし日本が非核兵器地帯に入るならサポートするよ。あとで情報はメールで送ってあげるよ、と誠実に対応してくださいました。

日本政府のレセプションの前には吉川大使と面会し、お話する機会を得ました。ずっと聞きたかった、使用済み核燃料を再処理後、核兵器に転用されるのではないかと他国が心配していることに関してどう思うかということを質問しました。

一日本政府に悪い意図は無い。各国から疑われうるが、国際的にわかる形で伝えていかないといけないと思うーとおっしゃいました。

私自身、前向きな発言であると受け取ったのですが、先生には私の質問の意図からずれた回答をされたと指摘されました。もっともっと勉強する必要があると感じました。

たくさんの貴重な機会を作ったいただいたことに感謝します。

The NPT Prep Com have just started .

Go back to top

No.1 Friday, 27 April

NPT再検討会議第三回準備委員会まであと1日...!!ニューヨークはとても寒いです。

今日の午前中は軍縮教育家のキャサリンサリバンさんとミーティング、午後からはBANgのクリスチャンさんの招待で公園で顔合わせも兼ねたピクニックをしました。ピクニックの中で、2014年2月13日から14日にメキシコのナヤリットで開催された『第2回・核兵器の人道上的影響に関する国際会議』の議長総括のなかでかなり前向きな発言がでたこと、それに伴うP5の動きについても話ができました。私も改めて、RECNAのホームページにあるメキシコでの会議の議長総括(概要)を読み返しています。

Go back to top

No.0 Thursday, 24 April

先ほどニューヨークに到着しました。これからの約10日間を考えると不安とドキドキの気持ちで一杯です。

NPT(核不拡散条約)再検討会議準備委員会は28日から始まります。

私は、特に核兵器禁止条約を結ぶことを選んだ国々に興味があります。

日本がこれからどのような選択をしていくのか、どのような歴史を刻んでいくのかわかりません。私自身も日本が、そして世界がどのような道を選ぶのが一番ベストな方法なのか、わかりません。非核兵器国は非核兵器国になってどんなことが変わったのか、どんなメリットもしくはデメリットを感じているのか。一方で核兵器国も同様にどのように考えているのか、

どのように感じているのか。

一つでも多くの刺激を感じ取って長崎に戻りたいと思っています。

ハチャメチャな英語でごめんなさい

支えてくださった全ての人に感謝して★

I have just arrived in NY. I am very excited and very nervous.

NPT PremCom will start from April 28th.

I am most interested in countries which are Nuclear Weapons Free Zone.

After they decide to be NWFZ,how did they feel now,what is the merit for their country and why they could select NWFZ.

Which is the best choice for japan...I don't know now.

I want to get some hints.

I am going to get a lot of chance to speak foreigner youth and politician.

I will think about future of japan and all over the world.

Thanks all supporters very muuuuuch.

Go back to top

このページのトップへ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

 recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/second_activities/blog2014/tomoes-blog

Tomoe's Blog ~NPT 私の視点~

No.9 Wednesday, 14 May

NYでの活動のブログ、最終号の投稿がまだでした。

5月9日（金）に無事帰国しました。時差ボケをなおすためにゆっくり休...みたいところですが、報告会を来週に控えているため忙しく活動しています。

報告会の準備を進めるうえでも、私は新たな壁にぶつかっています。それは「ユース代表団の活動を通して学び、考えたことをどうすれば相手に伝わるか？」ということです。

帰国後大学に行くと、友達が「おかえり！」と私を温かく迎えてくれました。とても嬉しかったです。そして皆に必ずと言っていいほど聞かれるのは、「どうだった？楽しかった??」この一言です。さて、何て返事しようか・・・。

2週間NYで、若者に伝える価値のある濃い経験をしてきたと思います。話したいことは山ほどあります。しかし、核問題にそれほど興味のない人からすれば、核問題の難しい話を急にされてもきっと面白くないですね。ですから私がNYでの体験を彼らに伝えるためのチャンスは、「どうだった？」と相手から関心を向けてくれるこの1回きりなのです。

しかし、私はこの質問に対して、ありきたりの返事しかできずにいます。「楽しかったよ」といった風にです。私はNYに、単に観光をしに行っただけではありません。本当は、ただ楽しかっただけではないのです。どういった体験が私を楽しいと思わせたのか、あるいは悔しいといった気持ちにさせたのか。一番語りたい、詳細の部分をほとんど伝えられずにいます。相手に伝わるように伝えるのはなかなか難しいです・・・。

来週は大学内で報告会があります。多くの人にNYでのことを伝える大きな機会です。伝えたいことを、相手にいかに伝えるか。よく考えようと思います。

最後になりましたが、多くの方々の支えのおかげで私たちは普段の学生生活では経験できないような貴重な学びの機会を頂いたことを心から感謝しております。ありがとうございました！

写真は、NPTに参加していた核問題に取り組む若者と撮ったものです(^^)沢山の素敵な出会いがありました！



[Go back to top](#)

No.8 Tuesday, 6 May~Wednesday, 7 May

5/6はNYにあるマウントサイナイ医科大学の、ロバート柳澤先生のもとを訪問しました。

ロバート先生は私たちに9/11tribute center訪問を勧めてくださった方です。広島・長崎の原爆と9/11テロ、福島での原発事故に対して先生がどのように関わって来られたかをお話してくださいました。

私は医療系の学生なので、ロバート先生が医師として9/11テロや福島での原発事故の被災者にメンタルヘルスの分野で活動なさっているお話に興味を持ちました。

原爆

9/11のテロ

福島での原発事故

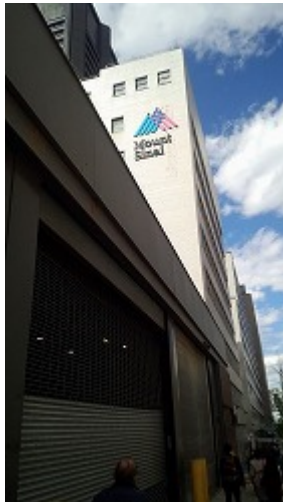
この3つは一見して接点のないものに思えます。私自身もNYに来て今日にいたるまでこれらの関係性を考えたことはありませんでした。

9/11の後、佐々木貞子さんの兄が貞子さんの折り鶴をアメリカに贈ったこと。9/11経験者が東日本大震災被災者に、「どうやって突然家族を失った悲しみを処理してきたのか」共通する経験を伝えたこと。そして被曝した福島の女性が「結婚できない、子ども産めないのでは」という原爆で被曝した女性が感じたのと同じ不安を抱えていること。

このような事実を知るにつれ、広島長崎・ニューヨーク・東北で起きた別々の出来事が人々の努力によって繋がり、気持ちを共有しているのだと私は考えました。

7日は私にとって国連での活動最終日でした。にもかかわらず、普段は3時間行われる午後からの本会議が、開始約10分で終了してしまいました。

余談ですが、7日の昼食はNPTでいつも私たち若者を引っばってくれるクリスチャンに東日本大震災、特に福島原発事故のことを沢山質問されました。質問の中には正確に答えることができないものもあり残念だなと思いました(>_<)まずは、自分の国で起きていることに関心を持って知ること。とても大切だと実感しました。



[Go back to top](#)

No.7 Monday, 5 May

国連の会議が2週目になりました。本会議傍聴の席も先週前半はほぼ満席状態だったのに、今日は空席が目立ちました。

午前中から 9/11TRIBUTE CENTERを訪問しました。9.11の家族会の方が、施設内の展示を一つ一つ丁寧に説明してくださいました。

広島で被爆された佐々木貞子さんの折り鶴も展示されていました。家族会の方から、こんなお話を伺いました。

「佐々木さんはアメリカが投下した原爆の影響で病気になってしまった。彼女が折った鶴は、戦後アメリカが支援のため送った薬の包装でできている。そして、その折り鶴は現在ここニューヨークにある。」

このお話は薬学部の私にとって興味深かったのですが、同時になんだか複雑な気持ちもしました。

その後は、事件により崩壊した2つのビル跡地にあるメモリアルに行きました。跡地には現在滝がつくられています。(写真をご参照ください。)

また、家族会の方々は他の地域の被災者等に寄付やボランティアをされていることも知りました。東北大震災3/11後には、折り鶴のモニュメントを寄贈したとのことでした。

広島長崎の原爆と9.11のテロ、そして東日本大震災。状況はそれぞれ違いますが、どれも突然多くの人の尊い生命が失われました。私は相手の置かれた状況や心情を推し量ることのできる人になりたいです。原爆・9/11・3/11のいずれも直接経験していない私のような者には、彼らの深い悲しみを少しでも理解し共有するために「想像力」が必要だと思います。そしてその力を高めるために現地を訪れるというのは、より具体的に想像するための良い手段だと思います。

例えば、私はニューヨークに行く前の春休みに東北3県を訪問しました。津波の破壊力を伝える陸前高田の町並みは、実際にみる前の私の予想をはるかに超えるものでした。今では被災地に対して具体的に自分は何ができるかなどを考えることができるようになりました。

今回のトリビュートセンター・メモリアルの訪問も家族会の方からお話を聴いたり自分の目で跡地を見るという貴重な経験ができ、とても勉強になりました。

↓トリビュートセンターについて

<http://tributewtc.org/>



[Go back to top](#)

No.6 Friday, 2 May

〈今日の主な活動〉

- ・ Pugwashに携わっている方々と会う
- ・ ノルウェーのユースとの交流
- ・ ドイツ学生とディスカッション

皆さんは「パグウォッシュ会議」というのをご存知でしょうか。

1957年、世界各国の22人の科学者がカナダの漁村パグウォッシュ(Pugwash)に集まり、核兵器の危険性、放射線の危害、科学者の社会的責任について討議を行ったのが始まりで、今日では「パグウォッシュ会議」はグループ名にもなっています。1995年には「国際政治における核兵器の役割を減じ、核兵器の廃絶を目指す長年にわたる努力」が評価され、ノーベル平和賞を受賞している団体です。

今日はヤング・スチューデント・パグウォッシュの2人と交流することができました。

パグウォッシュ会議は年に一度開催されていて、去年はトルコのイスタンブールでした。来年は、なんと長崎の伊王島で行われるのです！！パグウォッシュのユースも、本会議の前にユースによるイベントをするそうです。パグウォッシュのユース2人から、長崎では地元の若者を巻き込んだイベントをしたいとの提案を受けました。帰国したら早速彼らとコンタクトをとって協力したいと思います。

この団体を動かしているサンディーさんとは、春にRECNA（核兵器廃絶研究センター）で講義を受けていたので、お会いするのは2度目でした。人とのつながりは大切だと改めて感じさせられました。

ドイツ学生とは「原発政策と核の傘」をテーマにプレゼンテーションとディスカッションをしました。

ドイツは①原発を持っている②アメリカの核の傘にある国であるという点で日本の核に関する状況と似ています。一方で、ドイツは福島原発事故の後、原発を将来的になくす政策に転換しており、日本はそこから学ぶべきことがあるのではないかとこのテーマになりました。

個人的には、NATO(北大西洋条約機構)の核シェアリングについても詳しく聞きたかったのですが、そこまでの話には至らなかったのが少し残念でした。今後も核問題の勉強と語学力向上の両方をがんばります。





[Go back to top](#)

No.5 Thursday, 1 May

〈今日の主な活動〉

- ・ Government briefing for NGOs: Austria
- ・ NGOサイドイベント参加
- ・ ICRC（国際赤十字）の方との面会
- ・ ニューヨークばってん会の方々との夕食会

出席したNGOサイドイベントについて。

'Accidental apocalypse: Probabilistic approaches to accidental nuclear war and human survival'というタイトルのNGOサイドイベントに参加しました。私が特に印象に残ったのはSeth D.Baum氏の核戦争の危険性についてのプレゼンテーションです。連日の睡眠不足も一時的に吹き飛ばすような興味深い研究結果でした。

NPTで核保有を認められているのはアメリカ・ロシア・イギリス・フランス・中国の5か国。しかし実際にはその他の国も開発したり、核の傘に入り核シェアリングしています。核兵器は開発にもお金がかかりますが、その維持にも莫大な費用と高度な技術が必要です。核戦争というのは故意でなくても起こりうるもの（inadvertently）。核兵器の維持技術がどんなに向上しても、100%安全ということはありません。その中でどのようにして核保有国の核兵器使用のリスクを最小にするかということが問題になってきます。

第二次世界大戦のあとの歴史を見ても、例えばキューバ危機や米ソ冷戦など核戦争勃発のリスクが非常に高まったことがあることをこのプレゼンで思い出しました。Seth D.Baum氏はデータを基に核戦争のリスクについて説明したあと、'Nuclear war can happen inadvertently'という言葉をお私たちに伝えてくださいました。

今回私がこのサイドイベントに参加したのは、このプレゼンをしたSeth D.Baum氏の紹介があったからです。NPT第3回準備委員会の初日、本会議場で偶然隣の席になりお話をさせていただいたのがきっかけで、私がプレゼンをするサイドイベントにSeth氏は来てくださいました。後日、今後役に立つように、私のプレゼンを聞いての感想やアドバイスを書いてメールしてくださるとの有難い提案もいただきました。

このように、国連で出会う人々から毎日多くのことを学ぶことができ、大変感謝しています。

また夕食会ではNY在住の、九州にゆかりのある社会人の方々からお話を聴くことができました。

※更新が遅れてしまい申し訳ございません。



Go back to top

No.4 Wednesday,30 April

〈今日の主な活動〉

government briefing(USA)

北東アジア非核兵器地帯について調べもの

NYの高校訪問

国連内でピースデポのサイドイベント参加

インタビュー企画

準備委員会3日目。今日は気温が低い上に激しく雨が降っていました。

午後から、Hibakusha StoriesというNGOの企画で、High School of Fashion Industriesという高校を訪問しました。10年生と共に、ヒロシマ・ナガサキの被爆者の方の体験を聴きました。

今なお核兵器を所有しているアメリカで暮らす若者に、被爆体験はどのように受け入れられるのか。講話が始まる前、私は少し不安な気持ちになっていました。

しかし、心配は無用でした。現地の高校生は被爆者の方の講話を時折りアクションを示しながら積極的な姿勢で聴いていました。質疑応答も盛んに行われ、充実した時間を過ごすことができました。

被爆証言の継承の方法として、今回私が体験させてもらったように、日本の若者と外国の若者が共に被爆者のお話を聴くというのはとても良いと思います。私も、アメリカの高校生のアクティブリスニングの姿勢は非常に参考になりました。質疑の内容も幅が広がります。

例えば、今日は「アメリカを憎んでいるか」という質問も挙がりました。このアメリカの高校生の率直な問いに、被爆者が答える。とても貴重な瞬間を見た気がしました。

また、私は今、若者に核問題を身近に感じてもらえるようなVTRの作成を企画しています。今日はドイツからの大学生や日本からのインターンシップ生、新聞記者の方、さらにはエジプト政府の方にも協力していただきました。この企画が上手くいくか分らず不安もありますが、NYで私にできる最大限の努力をしようと思います！



[Go back to top](#)

No.3 Tuesday, 29 April

〈今日の主な活動〉

- ・ NGOサイドイベント「平和首長会議ユースフォーラム」でプレゼンテーション
- ・ NGOプレゼンテーションへの参加

NPTの準備委員会では本会議と同時並行で、NGOによるサイドイベントが行われています。今日、私は国連内で開催された「平和首長会議ユースフォーラム」で、英語によるプレゼンテーションをさせていただきました。

このフォーラムのテーマは「核兵器のない平和な世界を目指して - 若者たちのメッセージ -」。広島・沖縄の高校生、ナガサキ・ユース代表団、平和首長会議2020ビジョンキャンペーン協会インターンをしている大学生ローレン・シューラーさんがプレゼンをしました。

プレゼンではナガサキ・ユース代表団の紹介や長崎の若者の核問題に対する状況、さらにこれまでの活動を通して考えたことを発表しました。

核兵器問題は国際会議の場でどのように議論されているのか。大量破壊兵器の1つである核兵器の廃絶に向け、市民社会はどう動いているのか。世界各国の核兵器問題に対する姿勢はどこが違うのか...挙げればきりがありませんが、私たちナガサキ・ユース代表団は核兵器の問題をアカデミックに学んでいます。核問題の現状を知ることが、オバマ大統領も演説していた「核なき世界」を築くために必要な具体的方法の一つではないでしょうか。

午後はNGOプレゼンテーションでした。

私が特に印象的だったのは、若者の声を集めたユースプレゼンテーションです。27日にクリスチャンの声かけで若者が集まったとき知り合った Alexandraがstatementを読みあげました。私たちナガサキ・ユース代表団も、このプレゼンを作る際にアイデアを提供していました。私が提案した「2015年は広島・長崎の被爆70年にあたるのと同時に、5年に一度開催されるNPT再検討会議の年である」という内容が採用されていました。statementとして発表されたことで、2015年というのはこの問題に関わる者にとって特別な意味をもつのだという発想を、多くの人と共有することができたのではないかとうれしく思います。

以下はユースプレゼンテーションの該当箇所の抜粋です。

We can change the game, and what better opportunity than now? Next year, 70 years will have passed since the bombs were dropped in Hiroshima and Nagasaki. The NPT Review Conference will also occur in 2015. It is our hope that these occasions will inspire everyone to promote true and lasting change.

平和首長会議について詳細は以下をご参照ください。

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/index.html>



[Go back to top](#)

No.2 Monday, 28 April

今日は2週間に及ぶ会議の初日。朝早く国連に行くと、ちょうど各国の国旗をあげている様子を見ることができました。いよいよ始まるんだな、と気持ちが引き締まりました。

〈今日の主な活動内容〉

- ・ 本会議傍聴(午前の部)
- ・ 国連事務総長の潘基文氏との面会
- ・ 日本政府大使との夕食会

今日は私の人生の中で、非常に特別な一日になりました。

広島市の松井市長と長崎市の田上市長による国連事務総長との会談に同行する機会をいただいたのです！

両市長は核兵器禁止条約の交渉開始を求める市民約21万人の署名と、同条約をの早期実現に向けて指導力を発揮するよう求める要請文を事務総長に提出しました。

潘基文国連事務総長は、2008年10月に国際会議の場で核軍縮に関する提案を発表しており、核兵器禁止条約の交渉検討についても言及しています。

今日の会談で事務総長はイランや北朝鮮の核問題について触れていました。また、両市長がこの問題にさらなるリーダーシップを発揮し持続可能な社会を広島・長崎から築いてほしい、という環境面からのアプローチをも要請していました。

田上市長のご配慮により、同行した私も事務総長への発言の機会を得ることができました。この滅多にない経験をさせてくださったことに心から感謝しています。

被爆者の方は若者に原爆の悲惨さを継承したいと強く願っていること。その一方で長崎の学生は核問題についてそれほど原爆の実相を知らない、あるいは行動していないのでは？と感じたこと。平和を維持するために、同じ世代の若者に私が伝えていきたいと考えたこと。

――このような想いを、つたない英語ですが自分の言葉で伝えました。

事務総長は私の想いを受けとめ、お返事の言葉もくださいました。

ユース代表団の任命式の時に、田上市長から①感性をフルオープンにしよう②自分の言葉で相手に伝えよう、というメッセージをいただいたのを思い出しました。

NYでの学びを余すことなくスポンジのように吸収し、自身の成長に繋がる2週間にしようと思います。

Go back to top

No.1 Sunday, 27 April

今日の午後は国連近くにある公園で、核問題に取り組む若者数人とユースメンバーで顔合わせをしました。NGOの一つであるBANgのコーディネーター、クリスチャンがこの機会をセッティングしてくれました。

初めて会った若者の中には、ピースデポというNGOから派遣されている日本人もいました。彼は明治学院大学の学生で、核問題を専攻しているとのことでした。

彼の話聴いて共感したことは、核問題に携わる若者のつながりをもっと大切にしたいということでした。今回のNYでの滞在中に彼らのような若者とのネットワークを作り、帰国後の活動をより良いものにしていきたいと改めて考えました。

また、今日は初めて国連本部の前まで行きました。これからの2週間で私の人生を変える大きな転機になることもあるかもしれません。これまで応援し支えて下さった全ての方への感謝の気持ちを忘れることなく、明日から始まる準備委員会に臨みます。



[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 24 April

みなさんこんにちは！

ナガサキ・ユース代表団2期生の山中智絵です。長崎大学薬学部2年生です。

これからNY行きの飛行機に乗ります！今朝出発してから緊張と不安でいっぱいでしたが、今は成田空港まで来れたのでほっとしています。

長崎に住み始めて、長崎には日常的に平和について考えさせられるような機会が多くあることに気づきました。そこで、大学の4年間で長崎について深く知りたいと考え核問題をRECNAで学ぶようになりました。

NYで過ごす約2週間は各国政府や国連関係者、NGOの方とお会いする機会に恵まれます。核兵器に関する国際的な議論の場で日本はどんな役割を果たしているのか、自分の目で確かめたいと思います。

私が本格的に核問題を学び始めたのは大学生になってからです。同じ世代の若い人と、少しでもこの問題を共有できたら私はとても嬉しいです。

このfacebookにも、自分がNYで真剣に考えたことをできる限り分かりやすく投稿したいと考えています。これからよろしくお願いいたします！

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)